

第41回

読んでみよう**子ども**の本・展示会

2014年に出版された子どもの本から図書館がすすめる400冊

日時 2015年4月16日（木）－ 5月6日（水）
午前9時30分～午後6時 ※土・日・祝日は5時まで
会場 富山市立図書館 本館5階 青少年図書室

富山市立図書館



毎年、たくさんの数の児童図書が出版されます。その中で、子どもたちが実際に手にとる本はわずかです。子どもたちが楽しい本や、すぐれた本と出会い、豊かな読書体験ができるようにと願うとき、たくさんの本の中から何を選びどう手渡すかという判断は、容易なことではありません。

そこで富山市立図書館では、昨年1年間に発行された新刊図書の中から、すすめる本として、400冊を選び展示会を開催し、あわせて本の内容を紹介した展示目録を発行しています。この目録が、子どもたちの読書の手がかりになれば幸いです。

なお、選定にあたっては、児童文学関係の書評誌や新聞の書評等も参考にさせていただきました。



凡 例

1. この図書目録は、平成26年の1年間に発行された新刊図書のうち、当図書館で収集した児童図書から400冊を収録しました。
2. 図書は、ジャンル別に分けています。そのうち、絵本は書名の50音順、物語・文学・知識の本は、分類番号順に並んでいます。
3. 内訳は、絵本133冊、物語・文学181冊、知識の本86冊です。
4. 絵本と知識の本の対象年齢区分は、次の6段階です。
赤ちゃん～、幼児～、小学校低学年（〔小低〕と表示）～、小学校中学年（〔小中〕と表示）～
小学校高学年（〔小高〕と表示）～、中学生（〔中学〕と表示）～
5. 復刊やシリーズで続いている作品は、なるべく対象からはずしました。

目 次

絵本	(133冊)	1～16p
物語		
小学校低学年	(33冊)	17～20p
小学校中学年	(53冊)	21～27p
小学校高学年	(61冊)	27～35p
中学・高校	(30冊)	35～39p
その他の文学	(4冊)	39p
知識の本	(86冊)	40～50p

絵本

あかいえのぐ

エドワード・アーディゾーニ／作 津森優子／訳
瑞雲舎

サラとサイモンは貧しい画家の子ども。家族仲良く暮らしているが、大事な絵を描くための、赤い絵の具さえ買えなくなる。困りはてた一家に救いの手を差し伸べたのは、二人が町で出会ったおじいさんだった。実は、そのおじいさんはお父さんと仲違いをしたおじいさんだった。〔小低～〕

あかちゃんうさぎとパパ

パッツィ・スキヤリー／さく リチャード・スキヤリー／え 好学社

うさぎの大家族に赤ちゃんが生まれ、みんな赤ちゃんが将来どんな職業につくのか想像する。警察官やピエロ、カウボーイ、パイロットなど、楽しい想像をふくらませる。家族の幸福にあふれた絵本。〔幼児～〕

あきちゃった！

アントワネット・ポーティス／作 なががわちひろ／訳 あすなろ書房

茶色い小鳥はチュンと鳴くことに飽きてしまい、へんてこりんな鳴き方をしてみる。すると、カラスや他の鳥たちから「茶色い鳥はチュンと鳴くものだ」と諭されるが、他の鳥も違う鳴き方をするようになる。まじめなカラスだけは最後まで抵抗する。〔幼児～〕

あげます。

浜田桂子／作 ポプラ社

生まれたばかりの赤ちゃんに嫉妬した男の子は、友達に妹をあげることを思いつく。なかなかもらい手が現れないため、赤ちゃんの訓練まで始めるが、そのうち大切な妹という存在に変わる。〔幼児～〕

あっ、ひっかかった

オリヴァー・ジェファーズ／作・絵 青山南／訳
徳間書店

はじめりはフロイドの尻が木にひっかかったこと。尻を取ろうと、靴を投げるがこの靴もひっかかり、靴を取るためにつれてきたねこも木から取れなくなる。はしご、バケツ、あひる……いろいろなものを投げるが全部ひっかかってしまう。思わぬフロイドの行動に笑ってしまうユーモアあふれる絵本。〔幼児～〕

あなのはなし

ミラン・マラリーク／さく 間崎ルリ子／やく
偕成社

ぶらりと出かけた靴下のあなは、途中で知り合いになった者たちと旅をする。たどりついた小屋で休んでいるとオオカミが現れ、みんなを次々と飲み込み、ついには、あなも飲まれてしまう。ところが、あなはオオカミのお腹にあなを開け、飲み込まれた者たちを助ける。穴あきのしかけ絵本。〔幼児～〕

あみだだ

谷川俊太郎／ぶん 元永定正／え 中辻悦子／構成 福音館書店

谷川俊太郎のリズミカルな言葉と、元永定正のユーモラスなイラストで自由に展開する〈あみだ〉の絵本。「あみだだだ だあみだだ このみちそのみち どこへいく？」〔幼児～〕

いいないいな

かたやまけん／さく 福音館書店

ぷうちゃんと動物たちが、体のいろいろなところを触りあってくらべる。犬はもしゃもしゃの顔、ぷうちゃんはぴかぴかのほっぺ、うさぎはまるい背中、ぷうちゃんはまるいおなか。「いいな いいな」と褒めあってお互いのいいところを確認しあう。ぷうちゃんと動物たちのやりとりが楽しい。〔赤ちゃん～〕

1わのおんどりコケッコー

イリーナ・ザトゥロフスカヤ／作 こじまひろこ
／やく 福音館書店

リュウカくんが散歩に行くと、1わのおんどりが「コケッコー」、2わのがちょうが「ガアガア」とにぎやかに鳴き声をあげる。3びきのくま、4ひきのみつばちと周りの動物たちで数える数字の本。〔幼児～〕

イーラちゃんはおうさま

しまだともみ／作 偕成社

部屋を片付けたくないイーラちゃんが思いついたのは、王様になること。ベッドカバーとシーツでお城をつくり、画用紙で王冠とひげを作って、立派な王様に変身する。好き放題をして王様気分を味わうが、夜になると寂しくなり……。元気な女の子の想像の世界を細かくていねいに描く。〔幼児～〕

いえでをしたくなかったので

リーゼル・モーク・スコopen／文 ドリス・バーン／絵 ほるぷ出版

四人の兄弟が家出をしたくなり、荷物をまとめてお気に入りの大きな木に引っ越す。木の上は快適だったが、風に吹き飛ばされてしまう。次々と住みよいところをもとめて引っ越すが、なにかしらトラブルが起こる。モノクロで繊細に描かれた絵が美しい。〔幼児～〕

いすうまくん

かどのえいこ／作 こうもとさちこ／絵 福音館書店

夏休み、おじいちゃんの家で物置で見つけた古い椅子。たっくんが椅子にまたがると、びゅーんと空へ飛び出した。それはお父さんも幼いころに体験した子どもだけの魔法だ。〔幼児～〕

いもむしってね…

澤口たまみ／文 あずみ虫／絵 福音館書店

プランターのニンジンにいたキアゲハの幼虫。葉っぱを全部食べたので、ぼくはお母さんたちとニンジンを探しにでかけた。その途中、いろんないもむしを見つけたんだ。幼虫が育ちチョウになる過程やそれを見守る親子の姿が立体的な技法で描かれる。〔幼児～〕

いろいろなほん

エルヴェ・テュレ／作 谷川俊太郎／訳 ポプラ社

白い紙にいろいろな色の絵の具がのっている。指で混ぜたり、他の色とくっつけたり。絵本でありながら、まるで実際に自分で触っているように思えてくる。色の不思議さを自由に楽しめる1冊。〔幼児～〕

うそ

中川ひろたか／作 ミロコマチコ／絵 金の星社

うそをつくのはいけないこと。けれども私たちのまわりにはたくさんのおうそがある。それに、人を喜ばせるうそもある。どうして人はうそをつくんだろう。うそってなんだろう。「うそ」を通して人が生きることを考える哲学的絵本。〔幼児～〕

ええことするのは、ええもんや!

くすのきしげのり／作 福田岩緒／絵 えほんの社

学校の帰り道、マナブは電動車椅子で立ち往生しているおじさんを見つける。初めは困っている人を手伝うというあたりまえの気持ちで車椅子をおしていたが、道行く人に褒められ得意気になる。しかし、誰にも見られなくなるとやる気が無くなってしまう。ボランティアをテーマにした絵本。〔幼児～〕

えきのひ

加藤久仁生／作 白泉社

大きな駅にやってきた姉弟。はぐれないようにお母さんについていっていたはずなのに、気がつく二人きり。まいごになったときの不安な気持ちと自分たちでなんとかしようとする冒険を、繊細な鉛筆と水彩で描く。〔幼児～〕

えをかくかくかく

エリック・カール／作 アーサー・ビナード／訳 偕成社

男の子が絵を描く。それは、とっても青い馬。それから、赤いワニ、黄色い牛を。絵を描くというのは、自由であり、間違った色などないという作者の想いが伝わる。〔幼児～〕

おーい、ふじさん!

大山行男／しゃしんとことば クレヴィス

富士山は、季節や時間によって様々なすばらしい表情を見せてくれる。30年以上、富士山と向かい合い続けた作者が撮影した富士山に、素直なことばをそえた写真絵本。〔幼児～〕

おおかみだあ!

セドリック・ラマディエ／ぶん ヴァンサン・ブルジョ／え たにかわしゅんたろう／やく ポプラ社

たいへんだ! おおかみがやってくる!! 近づいてくるオオカミをさけるため、本を傾けるとオオカミが転がって……。読者が本を動かすことで、絵本の世界が動いていく楽しい絵本。〔幼児～〕

大きくなるってこんなこと!

ルース・クラウス／作 ヘレン・オクセンバリー／絵 山口文生／訳 評論社

春がきて植物が大きく育つ。身の回りの子犬やヒヨコも大きくなった。「ぼくも大きくなるのかな」不安に思う男の子に、母親はやさしく応える。季節

が美しく移り変わる中、男の子の成長を描き出す。

〔幼児～〕

おかあさんどこいったの?

レベッカ・コップ／ぶん・え おーなり由子／やく ポプラ社

母親を突然亡くしてしまった小さな男の子は、母親の死を理解できず、どこかに出かけただけだと思う。やがて、もう戻らないかもしれないという不安が、少しずつ現実のものとなっていく。大切な人の死を受け入れるまでの、男の子の心情を温かい視点で描く。〔幼児～〕

おじいちゃんとのやくそく

石津ちひろ／文 松成真理子／絵 光村教育図書

大好きなおじいちゃんが亡くなり悲しむのぞみ。そんなのぞみに、夢の中でおじいちゃんが思い出の〈おじいちゃんの木〉に話しかけてほしいと語りかける。祖父の大きな愛情に包まれ成長する少女の姿を優しい水彩画で描く。〔小低～〕

おつきさまがたいへんだ

リチャード・バーン／作・絵 もきかずこ／訳 フレーベル館

あらいぐまのオールドリンは何でも知っているのが自慢。ある日、月の形がなぜ変わるのか聞かれるが、答えをしらないオールドリンはみんなと調べようとごまかす。そんな時、くまのハップルとラベルが謎の行動をとるのを見て、月を盗んでいるのではと疑う。〔幼児～〕

おやすみおやすみ

シャーロット・ゾロトウ／文 ウラジミール・ボブリ／絵 ふしみみさを／訳 岩波書店

ハトは体を寄せ合い、馬は立ったまま、アザラシは氷の上でねむる。いろいろな動物が眠る静かな夜の様子を、優しい言葉で語りかけるような絵本。〔幼児～〕

おやすみなさい

ヴィルジニー・アラジディ／ぶん カロリーヌ・ペリシェ／ぶん エマニュエル・チュクリエール／え カヒミ・カリィ／やく アノニマ・スタジオ

しずかな月夜の森では、いろいろな動物の子どもたちが母親に抱かれて、眠りにつこうとしている。「おやすみなさい、わたしのかわいいこ」夜が更けていくにつれ、色が濃くなっていくページをめくりながら、優しく静かに語りかける言葉がこちよい。〔幼児～〕

オリーブひみつがもぞもぞ

トール・フリーマン／作 なかがわちひろ／訳 小学館

モリーが「だれにもいわないでね」といって、オリーブに打ち明けたヒミツのはなし。誰にも話さないつもりだったけど、胸がもぞもぞしたオリーブはとうとうジョーに話してしまう。ジョーも誰にも言わないと約束したけれど、やっぱり胸がもぞもぞしてしまい……。〔幼児～〕

かぜをひいたおつきさま

レオニート・チシコフ／作・絵 鴻野わか菜／訳 徳間書店

イワンは、風邪をひいて草の上で横になっているお月様を見つける。家に連れて帰り、看病をすることにした。優しい線画で、イワンとお月様の交流をあたたく描く。作者は現代ロシア美術を代表する世界的アーティスト。〔幼児～〕

かしこいうサギとはずかしがりやの大きな鳥

パスカル・マレ／文 デルフィーヌ・ジャコ／絵 平岡敦／訳 徳間書店

海に遊びに行った陸の王様ライオンが、恐ろしい海の王様ドラゴンにつかまってしまう。家来のうさぎは、神様の鳥ガルダのふりをして、ドラゴンをやっつけようと思いついた。ミャンマーの昔話にヒントを得た、色鮮やかな絵本。〔幼児～〕

かしこくいきるしまりす

手島圭三郎／絵・文 絵本塾出版

北海道にすむしまりす。春に生まれたこどもたちは秋には冬ごもりの準備をはじめ。タカやキツネなどの天敵に狙われながら、必死にどんぐりを集め、土の中で春を迎える。北国で精一杯生きる動物の姿を版画で力強く描く。〔小低～〕

かぞくのヒミツ

イソール／作 宇野和美／訳 エイアールディー

いつもきれいなママにはヒミツがある。朝早く見たママは、髪が尖ったヤマアラシだった。どんなうちにもある家族の秘密を女の子がそっと教えてくれる。〔幼児～〕

きせきのお花畑

藤原幸一／著 アリス館

砂漠から遠く離れた海で出来た霧が地上すれすれに飛び、砂漠を潤す。その霧を茎や葉で受け止めた植物は、まるで奇跡のように砂漠一面に花を咲かせ種を結ぶ。そしてその花は植物だけでなく、昆虫や小鳥、小動物の命を支えている。〔小低～〕

きつねどん ハンガリーの民話

洞野志保／再話・絵 ビリケン出版

ずるがしこいきつねどんは、旅の者と偽ってあかぎつねの家に泊めてもらう。翌朝、自分のにわとりが盗まれたと嘘をつき、あかぎつねからまんまとにわとりをせしめたきつねどん。同じ口で次々と親切な家族を騙していく。東欧のむかし話。〔幼児～〕

希望の牧場

森絵都／作 吉田尚令／絵 岩崎書店

福島第一原子力発電所近くの、立ち入り禁止区域になった牧場。そこには取り残された三百頭以上の牛がいた。牛たちの命を守ると決意し、世話を続ける牛飼いの姿を力強い筆致で描く。〔小低～〕

くま！くま！くまだらけ

ルース・クラウス／作 モーリス・センダック／
絵 石津ちひろ／訳 徳間書店

くまのぬいぐるみが犬にさらわれた！逃げる犬を追いかける男の子の前に次々とくまが現れる。おふろには泡だらけのくま、庭ではくまがにらめっこ……。でも男の子がほしいのは、自分のくまだけ。アメリカを代表する絵本作家の作品を、石津ちひろがリズミカルな言葉で翻訳した1冊。〔幼児～〕

くらべっこしましょ！

石津ちひろ／ぶん 松田奈那子／え 白泉社

「だんごむしさんみじかい」「あおむしさんながい」「あれれ？あおむしさんみじかい」「へびさんながーい」動物たちが体の長さや大きさをくらべっこする。しかけあり。〔赤ちゃん～〕

クリスティーナとおおきなほこ

パトリア・リー・ゴーチ／作 ドリス・バーン／絵 偕成社

クリスティーナは、新しい冷蔵庫が入っていた大きな空箱をもらう。お城にしたり、秘密基地にしたり、レーシングカーにしたり、箱がボロボロになるまで遊びつくす。想像がふくらむ子どもの様子を生き生きと描く。アメリカの多くの教科書に掲載。〔幼児～〕

クリムのしろいキャンパス

イヒョンジュ／さく かみやにじ／やく 福音館書店

クリムは、自分がクレヨンで描いた雪の森へ入り込む。そこで出会った動物達に必要なものを描くと、描いたものがどんどん本物になってゆく。画面いっぱい広がる真っ白な雪が、空想の世界の広がりを感じさせる。〔ボローニャブックフェア新人賞部門入選〕〔幼児～〕

クレヨンからのおねがい

ドリュー・デイウォルト／文 オリヴァー・ジェファーズ／絵 木坂涼／訳 ほるぷ出版

絵を描くのが好きなケ빈は、クレヨンたちから手紙を受け取る。大活躍の赤いクレヨンは、「ちょっと休ませてほしいんだ」。黄土色は、「もっと使ってほしいな」。12色のクレヨンたちが切実な願いを手紙に綴り、ケ빈に思いを伝える。〔幼児～〕

くろねこさんしろねこさん

得田之久／ぶん 和歌山静子／え 童心社

黒猫と白猫が散歩に出かける。建物の黒い影では、黒猫が見えなくなり、洗濯物の白いシーツの前では白猫が見えなくなる。出かけた先のいろいろな場所によって、見えたり見えなかったり、色の不思議を体験。〔幼児～〕

こころとしんぞう

中川ひろたか／文 村上康成／絵 保育社

運動会の前の日のドキドキと走った後のドキドキ、それから好きな子にあったときのドキドキ。この動悸は同じドキドキなのかな？心臓の働きとこころの関係をわかりやすく描いた知識の絵本。〔幼児～〕

こんや、妖怪がやってくる 中国のむかしばなし

君島久子／文 小野かおる／絵 岩波書店

妖怪が子牛を食べ、おばあさんに「明日はおまえを食いにくる」と言う。おばあさんが泣き泣き歩いていると、たまごや雑巾、かえる、こん棒などに次々出会い、みんなおばあさんに「助けてあげる」と約束するのだった。『さるかに合戦』にも似た中国青海省トゥ族の昔話。〔幼児～〕

さあ、はこをあけますよ！

ドロシー・クンハート／作 ふしみみさを／訳
岩波書店

サーカスの団長が持つ小さな小さな箱の中には、小さな小さな犬が入っていた。犬のピーウィーはみんなの人気者。ところがある日、ピーウィーが大きくなり始め、サーカスにいられなくなってしまう。ユーモア絵本。〔幼児～〕

さようなら、おばあちゃん

メラニー・ウォルシュ／さく なかがわちひろ／訳
ほるぷ出版

おばあちゃんが死んじゃった。「死んじゃったってどういうこと？」「もう会えないの？」〈死〉に出合った子どもたちの疑問に、やさしい言葉でこたえる。

サンタクロースのおてつだい

ロリ・エベルト／文 ペール・ブライハーゲン／写真
なかがわちひろ／訳 ポプラ社

もうすぐクリスマス。小さな女の子オンヤはサンタクロースのお手伝いをするために、北へと向かう。途中、動物達に案内されながらサンタクロースを訪ねる。雪景色に、女の子のあかい帽子が印象的な写真絵本。〔幼児～〕

しーっ！ひみつのさくせん

クリス・ホートン／作 木坂涼／訳 BL 出版
森にあやしい四人組がやってきた。きれいな鳥を見つけると、ゆっくり、そっと近づいて秘密の作戦で捕まえようとするが……。深い夜の森を思わせる青を基調とした画面に、色鮮やかな鳥が印象的な絵本。〔幼児～〕

ジェドおじさんはとこやさん

マーガリー・キング・ミッチェル／作 ジェームズ・ランサム／絵 渋谷弘子／訳 汐文社

ジェドおじさんは郡にたった一人の黒人の床屋さん。馬に乗り家々をまわって髪を切っているが、いつか自分の店を持ちたいという夢がある。次々と困難が降りかかるが、おじさんは夢を決して諦めない。〔小低～〕

しきぶとんさんかけぶとんさんまくらさん

高野文子／作・絵 福音館書店

夜、寝る前に「悪い夢をみませんように」「おしっこがでたがりませんように」と願う男の子に、寝具たちは「まかせろ、まかせろ、おれにまかせろ」と力強く応える。こどもの不安をあたたく受け止める優しさにあふれた絵本。〔幼児～〕

12にんのいちにち

杉田比呂美／作 あすなろ書房

とある町に住む12人。看護師さんにわんぱく小中学生、小説家、パン屋さん、赤ちゃん、消防士……。同じ町に住み、同じ時間を生きている人たちの1日の生活を2時間ごとに切り取った作品。〔小低～〕

新幹線の旅

コマヤスカン／作 講談社

はるかちゃんとお父さんが、青森から鹿児島まで新幹線を乗り継いで旅をする。見開きいっぱいのパノラママップには、各地の駅と名所が細かく描かれおり、見ていると一緒に旅をしている気分になる。〔幼児～〕

ずいずいずっころばし

せがわやすお／作 福音館書店

わらべうた「ずいずいずっころばし」にあわせて、河童とネズミが大騒ぎ。せがわやすおの躍動感のある線画が印象的。月刊誌「こどものとも」（1995年2月号）のハードカバー版。〔幼児～〕

せかいでいちばん手がかかるゾウ

井の頭自然文化園／ぶん 北村直子／え 教育評論社

はな子は日本で一番年をとったゾウ。歯は1本しかないなので、食べ物は細かくしないと食べられない。そのため、世界で一番手がかかるゾウだといわれている。飼育員やお客さんに愛されているはな子の様子を、愛情と尊敬をこめて描いた作品。〔小低～〕

そうちゃんはおこってるんだもん

筒井頼子／文 渡辺洋二／絵 福音館書店

お母さんが留守の日。お父さんは妹のなっちゃんとはばかり遊んでいるので、そうちゃんは怒ってテーブルの下にもぐりこむ。きょうだいがいる子どもの気持ちを丁寧に描く。〔幼児～〕

かえるの竹取ものがたり

俵万智／文 斎藤隆夫／絵 福音館書店

『竹取物語』の登場人物が蛙で描かれたユニークな絵本。細密に描かれた見ごたえある絵に、やさしく読みやすい文章で、日本最古の物語を描く。〔幼児～〕

たんていネズミハーメリン

ミニ・グレイ／さく 灰島かり／やく フレーベル館

オフリー通りで、町の人たちの大切なものが無くなるという事件が発生。探偵ネズミのハーメリンは次々と事件を解決していく。町の人たちはハーメリンなる者が、実はネズミだとは知らず、お礼のパーティに招待する。書き込みが細かい楽しい絵。〔幼児～〕

ちいさなきしゃとおおきなおきやくさん

クリス・ウォーメル／作・絵 小風さち／訳 徳間書店

小さな機関士さんが運転する小さな汽車に、大きな体のセイウチ、クマ、ゾウが次々と乗り込んでく

る。何とか町についたものの、今度はたくさん買いい物の荷物をかかえて戻って来た。帰りの汽車では思いがけない出来事が起こる。〔幼児～〕

ちいさなタグはおおいそがし

スティーン・サヴェッジ／さく さくまゆみこ／やく 講談社

小さなタグボートのタグは大忙し。大きな船を押したり引っ張ったりして、仲間の船を助ける。タグが疲れると、今度は仲間の船が子守唄をうたい、優しくいたわってくれる。シンプルな絵で、船どうしのやり取りを温かく描く。〔幼児～〕

ちいさなちいさな めにみえないびせいぶつ のせかい

ニコラ・デイビス／文 エミリー・サットン／絵
ゴブリン書房

身の回りに存在する微生物。目にも見えない小さな生物が果たす大きな役割や増え方などを、美しい絵でわかりやすく伝える科学絵本。〔小低～〕

ちいさなワオキツネザルのおはなし

オフィーリア・レッドパス／作・絵 松波佐知子／訳 徳間書店

マダガスカルから北のまちに連れてこられた、小さなワオキツネザルは、船から逃げ出し一軒の家に忍び込む。食料はあるし、ちょうどいい隠れ場所も見つけ、こっそり住むことにした。家の主は、サルのにたずらを娘のしわざだと勘違いする。〔幼児～〕

デデとひこうき

中川洋典／作 文研出版

飛行機が大好きな男の子デデの描いた絵がコンクールのグランプリに選ばれる。表彰式に行くために、一人で飛行機に乗ることになったデデ。初めての飛行機に乗る時の、わくわくする気持ちや、ドキドキする少年の様子を描く。〔幼児～〕

どうぶつたちのおかいもの

渡辺茂男／さく 太田大八／え 福音館書店

動物たちが店で買い物をしている。ひょうはネクタイを、しまうまは帽子を、ろばはおせんべいを選んでいった。自分の買い物と思いきや、それは外国の動物園に引越しをするかもしか親子への餞別の品だった。ちょっと懐かしい店の佇まいと動物の表情が丁寧に描かれた1冊。〔幼児〜〕

どうぶつたちはしっている

イーラ／写真 マーガレット・ワイズ・ブラウン／文 寺村摩耶子／訳 文遊社

動物たちが何かを見て、騒いでいる。一体何を見たのだろうか。写真を使った物語絵本の原点。動物たちの表情と思いがけない展開が楽しい1冊。〔幼児〜〕

とけいのあおくん

エリザベス・ロバーツ／作 灰島かり／訳 殿内真帆／絵 福音館書店

青い小さな目覚まし時計のあおくんは、「だれか買いに来てくれないかな」と思っていた。そこへ男の子がやってきて、あおくんをじっと見つめると「この時計がいい」と言ってくれる。あおくんは「ルリン、ルリン」ときれいな音でベルを鳴らした。〔幼児〜〕

どっとこどうぶつえん

中村至男／さく 福音館書店

この動物園にいるのは、四角の色だけで描かれた動物たち。簡略にデザイン化された絵と色彩が動物の特徴をとらえ、いろいろな動物たちに見えてくる。〔幼児〜〕

トビのめんどり

ポリー・アラキジャ／作 さくまゆみこ／訳 さ・え・ら書房

アフリカが舞台。トビはめんどりを飼っている。友達の家畜たちが次々と赤ちゃんを産む中、トビのめんどりも一つ二つ三つとたまごを産んであたまめる。数を数えるのが楽しい絵本。〔小低〜〕

トマス・ジェファソン本を愛し、集めた人

バーブ・ローゼンストック／文 ジョン・オブライエン／絵 渋谷弘子／訳 さ・え・ら書房

第3代アメリカ大統領トマス・ジェファソンは、子どもの頃から本を読むのが大好きで、生涯本を集め続けた。アメリカ議会図書館の礎をつくったジェファソンの本への深い愛情を描く。〔小低〜〕

トムテと赤いマフラー

レーナ・アッロ／文 カタリーナ・クルースヴァル／絵 光村教育図書

女の子が無くしてしまったマフラーを拾ったのは、赤い三角帽子をかぶった小さなトムテだった。トムテは、マフラーを布団や帆のかわりにして大事に使いながら、北へと旅をする。北欧スウェーデンのお話。〔幼児〜〕

トラさんあばれる

ピーター・ブラウン／作 青山南／訳 光村教育図書

町で暮らす動物たちは、きちんと正装して、礼儀正しい。ある日、堅苦しさを感じたトラは服を脱ぎ捨てると、森へ行く。トラの生活を満喫し、自由な気持ちになったものの、今度は町のみんなが恋しくなる。落ち着いた色彩の中で、トラのあざやかな色が印象的。〔幼児〜〕

トーラとパパの夏休み

リーサ・モローニ／文 エヴァ・エリクソン／絵 菱木晃子／訳 あすなる書房

いつもパパはパソコンやスマホに夢中。そんなパパと、トーラは森にキャンプに来た。楽しみにしていたのにそこでもパパはスマホばかりで、トーラが

みつけたキリンやライオンに気付かない。本当につまんないパパだと思っていたけれど……。〔小低～〕

とりがないてるよ

ヨアル・ティーベリ／文 アンナ・ベングトソン／絵 オスターグレン晴子／訳 福音館書店

カササギは「カシャカシャ」とやかましく、アオサギは「ゴワーグワッグワッゴワー」と苦しそうに、スズメは「チュチュチュ」と短く鳴く。13種類の鳥の鳴き声を、鳥の特長をとらえたやさしい絵とともに紹介したスウェーデンの絵本。〔幼児～〕

ドロシーとまほうのえのぐ

デニス・トレ／作・絵 アラン・トレ／作・絵 PHP 研究所

ドロシーは、物置部屋の壁に大好きな動物の絵を描きはじめる。すると、絵が現実の動物となり壁から飛び出し、ロ々に自分の気に入らないことを叫び、けんかを始める。躍動感あふれるカラフルな絵が楽しい。〔幼児～〕

どんぐり

エドワード・ギブス／作 谷川俊太郎／訳 光村教育図書

ちっちゃな黄色いどんぐりがひとつ、地面に落ちた。次々に動物がやってきて食べようとするが、どんぐりは「いまはたべないで」という。そのうちに、どんぐりは芽を出し、大木になり、多くの実を実らせる。くり返しが楽しい、美しい絵本。〔幼児～〕

ながいでしよりっぱでしよ

サトシン／作 山村浩二／絵 PHP 研究所

ゾウは鼻を、キリンは首を、ダチョウは足を「ながいでしよりっぱでしよ」と自慢する。他にも次々と〈長い〉ことを自慢する動物たち。それを見ていたニワトリも「ながいでしよ」と自慢する。一体何が長いのか。表情豊かな動物たちがユーモラスな1冊。〔幼児～〕

ならんでるならんでる

竹下文子／作 鈴木まもる／絵 偕成社

ちいさいありがならんでる。あひるのおやこがならんでる。それから10人のこどもたち。ならんでみんなでバスに乗り、ならんで山を登ったら……。ならんだ先には、きっと楽しいことが待っている。〔幼児～〕

なんでもあらう

鎌田歩／作 福音館書店

汚れた自転車ででかけたけんは、ヘルメットをかぶったおじさんに自転車を洗ってもらった。安全を守るために、なんでも洗うというおじさんといっしょに街や乗り物を洗う様子を見学に行く。道路や電車、ビルや飛行機など、普段見ることのないものを洗う様子が丁寧な絵で描かれている。〔小低～〕

ニャーロットのおさんぽ

パメラ・アレン／作・絵 野口絵美／訳 徳間書店

散歩に出たねこのニャーロット。途中で煮豆を1皿、ポークパイを2つ、骨付き肉を3本、アイスクリームを4つペロリと食べた。お腹がふくれてやっとのことで家に帰るが、ドアにつっかえてしまい……。〔幼児～〕

にんじんだいこんごぼう ～日本の昔話より～

植垣歩子／再話・絵 福音館書店

どろだらけになったにんじん、だいこん、ごぼうがお風呂に入る。熱いお風呂でにんじんは真っ赤に、きれいに洗っただいこんは真っ白に、洗わなかったごぼうはどろだらけのまま。馴染み深い日本の昔話だが、昭和レトロな雰囲気で見られる。〔幼児～〕

ねこくんいちばでケーキをかった

ユーリー・ワスネツォフ／絵 たなかともこ／編
訳 岩波書店

ロシアのわらべうた絵本。わらべうた 14 篇と昔話 1 篇に、ロシアの国民的画家が色あざやかな絵をつけている。たくさんの動物が登場し、リズムカルでユーモアあることばが楽しい。〔幼児～〕

ネルソン・マンデラ

カディール・ネルソン／作・絵 さくまゆみこ／
訳 すずき出版

南アフリカの人種差別撤廃を求めて、生涯をかけてたたかい続けたネルソン・マンデラ。世界から尊敬を集める彼の一生を、美しく印象的な絵と文章で紹介する。〔小中～〕

のはらでまたね

はせがわさとみ／作 文溪堂

冬の日、ためきはこぐまからプレゼントを受け取る。中には緑色のマフラーが入っていたが、ためきは使い方がわからない。お腹にまいて外に出ると、小鳥がそれは「緑の野原だよ」と言う。春を待つ動物たちの様子に心温まる絵本。〔幼児～〕

のんびりしてたら…

五味太郎／作 ポプラ社

男の子がのんびりしていると、頭の上に草むらが茂り、塀ができ、波が来た。次に、頭の上に何が来るのか、ページをめくるのが楽しみな絵本。『ぼんやりしてたら』と同時刊行。〔赤ちゃん～〕

はこぶ

鎌田歩／作・絵 教育画劇

荷物を運びたいときは、どうする？手で持つ。袋に入れる。二人で持つとたくさん運べる。車に乗せれば重いものでもどンドン運べる。「速く遠くにたくさんの物を届けたい」という思いが文明を進化させたことがよくわかる。〔幼児～〕

はじまりのはな

マイケル・J. ローゼン／文 ソーニャ・ダノウ
スキ／絵 くもん出版

渡り鳥のローザは、自分のほっぺたと同じ色の花「ほっぺのはな」が大好き。その種を持ち南へ向かう途中で川に落ち、犬のミールと飼い主のアンナに助けられる。アンナの家で「ほっぺのはな」を育てながら春を待つことにした。秋から春へと変わる季節の流れを繊細な美しい絵で描く。〔小低～〕

はずかしがりやのおつきさん

スズキコージ／作 福音館書店

馬が月の明かりで手紙を書いていると、月が雲の向こうに隠れてしまう。訳を聞くと、女の子と犬と猫にじっと見つめられて恥ずかしいという。月明かりを思わせる青一色で描かれた絵本。〔幼児～〕

はだしになっちゃえ

小長谷清実／文 サイオウマサミツ／絵 福音
館書店

夏の海。「はだしになっちゃえ」太陽に焼かれた砂であちち。波打ち際の砂はひんやり、やわらか。足の裏の砂が、波と一緒に引いていくとくすぐったい。みんなが感じたことのある夏の海の喜びを、足の裏の感覚で捉えた絵本。〔幼児～〕

はちかづきひめ 御伽草子より

長谷川摂子／再話 中井智子／絵 福音館書店

子どものいない夫婦が観音様にお願ひし、女の子を授かる。しかし、観音様のお告げで娘が幸せになるためには、ずっと頭に鉢をかぶせていなければならなかった。室町時代からの御伽噺をやわらかな日本画で描く。〔幼児～〕

ぱっぴぷっぺぼん

もろかおり／え うしろよしあき／ぶん ポプラ社

「ぱっぴ ぷっぺ ぼん」のリズミカルな言葉にあわせて、女の子とたくさんのカラフルな丸の形が、いもむしや自動車に変身する。画面から今にも女の子が飛び出しそうな明るい色彩の元気な絵。〔幼児～〕

はなちゃんのぼうし

丹治匠／さく こぐま社

はなちゃんのお気に入りの青い帽子が風に飛ばされた。帽子は風に乗って、町から海や山、とうとう月まで飛ばされてしまう。それでも、はなちゃんのもとへ戻ろうとする帽子の奮闘を、スピード感あふれる展開で描く。〔幼児～〕

はやくかえってこないかな

鈴木永子／作 福音館書店

ママと一緒に、パパの誕生日のケーキを焼いたもみちゃん。木の実やはっぱを飾って、とっておいしそうに出来上がる。なかなか帰ってこないパパを待っている間に、ちょっとだけ味見をするとまんまるケーキが欠けてしまい……。父親を待つ少女の豊かな表情が愛らしい。〔幼児～〕

ハリエットの道

キャロル・ボストン・ウェザフォード／文 カデイル・ネルソン／絵 さくまゆみこ／訳 日本キリスト教団出版局

アメリカ南部の奴隷制度から、一人で逃げ出した黒人女性ハリエット。神の声を頼りに自由の地を目指す彼女の旅を描く。〔コルデコット賞銀賞（2007年）、コレッタ・スコット・キング賞（イラストレーター賞）受賞（2007年）〕〔小上～〕

パンどうぞ

彦坂有紀／作 もりといずみ／作 講談社

「あんパンどうぞ」ぱくっと一口食べると、中からあんこがのぞく。ロールパン、ジャムパン、クリームパンなど次々本物のようなパンが登場。あたたかみのある木版画でおいしそうなパンを表現。〔幼児～〕

ピーター

バーナデット・ワッツ／作 福本友美子／訳 BL出版

ピーターは、ママの誕生日に世界一きれいな木をあげたいと思う。おじいちゃんに相談すると、植木鉢に何か植え、「世界でいちばんきれいな木だよ」と言ってピーターにくれる。ただの棒にしか見えないうピーターは植木鉢をかくしてしまう。雪が降る頃、木は薄桃色の花をいっぱい咲かせていた。〔小低～〕

ひかりうりのぴかこさん

松山円香／著 佼成出版社

ぴかこさんは海の底の雑貨屋さん。そこには海の中では手に入らないようなめずらしい物ばかり売られていた。一体どうやって手に入れているのか謎だが、ぴかこさんには月の出ない夜に、秘密の仕事があった。〔幼児～〕

ピクニック

ジョン・バーニンガム／作 谷川俊太郎／訳 BL出版

おべんとうをもってピクニックに行こう、動物たちといっしょに。森に隠れ、野原を横切り、「いいばしょ」を探そう。詩のような言葉と、ゆったりと描かれた緑の野原と青い空がのびのびとした広がりを感じさせる。〔幼児～〕

びじゅつかんへいこう

ピーター・レイノルズ／絵 スーザン・ベルデン／文
なかがわちひろ／訳 国土社

美術館を訪れた女の子。作品を体中で感じて、踊りたくなったり寂しくなったりうきうきしたり。一人ひとりが自由にこころを羽ばたかせることが出来る芸術の深さを描く。〔幼児～〕

ひとりでおとまりしたよるに

フィリパ・ピアス／文 ヘレン・クレイグ／絵
さくまゆみこ／訳 徳間書店

エイミーはおばあちゃんのところで、一人でお泊りすることにした。かばんには自分の荷物と、3つの宝物を入れた。夜、寂しくなったエイミーが、持ってきた宝物の小さなマットを広げると、そのマットはエイミーを乗せて窓から飛び出し、家へと向かう。〔幼児～〕

ひみつのかんかん

花山かずみ／作 偕成社

ひいばあちゃんの家遊びに行き、宝物の入ったかんかんを見せてもらう。中には写真や眼鏡、びんやお手玉などが入っていた。その一つ一つを見ながら、ひいおばあちゃんが思い出話を語る。明るいつい色の絵で、その時代の暮らしや町の様子が描かれている。〔幼児～〕

ヒワとゾウガメ

安東みきえ／作 ミロコマチコ／絵 佼成出版社

島に1頭だけいるゾウガメの背中には、おしゃべりなヒワがいた。「友だちだ」とヒワはいうが、長く生き、多くの友と別れてきたゾウガメは友だちなどいないと思っていた。ある日、ゾウガメのために海を渡ったヒワが幾日も帰らず……。迫力のある絵で、ゾウガメの心象が心に響く1冊。〔幼児～〕

ふしぎなともだち

たじまゆきひこ／作 くもん出版

小学2年生のおおたゆうすけは、引っ越してきた島で自閉症のやっくんに出会う。突然教室を飛び出すやっくんは最初はとまどうゆうすけだが、次第に友情を育む。やがて大人になり、島で働くようになった二人は、幼いころと変わらぬ友情でつながっていた。〔小低～〕

ふたごのたこたこウィンナー

林木林／作 西村敏雄／絵 ひさかたチャイルド

おはしにつままれたふたごのたこウィンナーが、つかまりたくない逃げ出した。トマトの中やチューリップの模様隠れながら最後にたどり着いたのは……。絵さがしや言葉遊びが楽しい絵本。〔幼児～〕

ふたごのどんぐり

上野与志／作 いしいつとむ／絵 文研出版

榎の木から生まれた双子のどんぐりのドンとグりは、仲が良くずっと一緒にいることを約束する。しかし、母さんから旅に出て立派な榎の木になるように言われ、旅立ちの日が近づく。やさしい色使いでやわらかいタッチの絵。〔幼児～〕

フランシスさん、森をえがく

フレデリック・マンソ／作 石津ちひろ／訳 くもん出版

画家のフランシスさんは毎日森へ入って、森の絵を描いて一日を過ごす。ある日、上空から森を描くため気球に乗ると、荒れ果てて、真っ黒になった森を目にする。生き残ったモアビの木の根元で涙を流すフランシスさんに、ある奇跡が起こる。繊細でくっきりとした線の色あざやかな絵。〔小中～〕

へいわってすてきだね

安里有生／詩 長谷川義史／画 ブロンズ新社

「へいわってなにかな。」「みんなのころから、へいわがうまれるんだね。」沖縄、与那国に住む小学1年生の男の子が書いた、純粋で力強い平和への思いを長谷川義史が絵本にした。まっすぐな願いが心に響く。〔幼児～〕

ペニーさんのサーカス

マリー・ホール・エッツ／作・絵 松岡享子／訳 徳間書店

たくさん動物たちと暮らすペニーさんのところへ、サーカスのチンパンジーとクマが逃げてくる。戻りたくないと言う二匹を、ペニーさんがサーカスから引き取るまでの出来事を綴る。あたたかみのあるモノクロの絵。『ペニーさん』『ペニーさんと動物家族』に続く3作目。〔小低～〕

ベルナルさんのぼうし

いまいあやの／作 BL出版

ひとりぼっちのくまのベルナルさん。お気に入り帽子をかぶって散歩をするのが楽しみだが、ある日、帽子にキツツギが住み着いた。それから、いろんな鳥がやってきて巣を作るようになり、最初は嫌がっていたベルナルさんも少しずつ楽しい気持ちに。ところが冬が近づいた朝、鳥たちがいなくなってしまう。〔幼児～〕

ヘレン・ケラーのかぎりない夢 見る・聞く・話す・読む・書く・学ぶ夢に挑戦した生涯

ドリーン・ラパポート／文 マット・タヴァレス／絵 国土社

目も見えず、耳も聞こえず、言葉も話せないヘレン・ケラー。サリバン先生との出会いにより、言葉をおぼえ、闇と沈黙の世界を変えていく。夢の実現に向けて挑戦し続けたヘレン・ケラーの伝記絵本。〔小中～〕

ぼくからみると

高木仁三郎／ぶん 片山健／え のら書店

ある夏のひょうたん池。釣りをする男の子から見た池、池の中の魚から見た池、空から舞い降りるとんびから見た池。池に集う生き物たちのそれぞれの視点で切り取った池の様子を、迫力ある油絵で描く。〔幼児～〕

ぼくのおじいちゃん

マルタ・アルテス／作 よしいかずみ／訳 BL出版

おじいちゃんは、一人でいると寂しくなったり、時々孫のぼくのことをわからなくなる。でも、ぎゅうって抱きしめれば大丈夫。老いをありのままに受け入れた孫の視点で、おじいちゃんとの日常を描いた優しさがあふれる絵本。〔幼児～〕

ぼくのかぼちゃ

かがわしの／作 こぐま社

ともくんがまいたかぼちゃの種。芽が出てつるがのびて花が咲き、大きなかぼちゃができた。スープにプリンにケーキ、かぼちゃ料理を楽しみにしていたが、猿の親子が現れて……。かぼちゃの収穫を待ちわびる男の子の様子を、切り紙の版画でユーモラスに描く。〔幼児～〕

ボタ山であそんだころ

石川えりこ／作・絵 福音館書店

昭和40年、炭鉱の町で3年生になった私はけいこちゃんと友達になった。ボタ山や泥の川で遊び、二人は親しくなっていく。そんなある日、炭鉱で事故が起き、けいこちゃんは学校へこなくなってしまう。〔小初～〕

北加伊道 松浦武四郎のエゾ地探検

関屋敏隆／文・型染版画 ポプラ社

江戸時代の終わりごろ、エゾ地とよばれていた北の大地を探検し、多くの記録を残した松浦武四郎。北海道の名付け親ともいわれる武四郎の生涯と、北

の大地とそこにすむ人々への想いを大胆な線と繊細な色使いの型染版画で描く。〔小中～〕

ぼんちんぱん

柿木原政広／作 福音館書店

「ぱんぱんしょくぱん ぼんちんぱん」リズムのよい言葉にあわせてパンが登場。「ちぎちぎぱぱで ぼんちんぱん」子どもたちに身近なパンがにっこり笑っている様子に親しみが持てる。〔赤ちゃん～〕

ほんをひらいて

トニ・モリスン／文 スレイド・モリスン／文
さくまゆみこ／訳 ほるぷ出版

天気の良い日に、ルイズはレインコートを着て傘を持って家を出る。暗い木陰を通り、幽霊が出そうなゴミ捨て場を通して向かったのは図書館。ルイズは本を開いて、楽しい冒険の世界へと出かける。本のすばらしさを伝えられる絵本。〔幼児～〕

ぴっぽのたび

刀根里衣／著 NHK 出版

夢を見ることを忘れたカエルのぴっぽは、いつも孤独だった。ある日、夢の中を旅することができる小さなひつじと出会う。一緒に移り行く季節を旅するうちに、ぴっぽの心に変化が表れた。色鮮やかで繊細な筆致の絵。〔ボローニャ国際絵本原画展・国際イラストレーション賞（2013年）〕〔幼児～〕

ママ、あのね

福田幸広／写真 ゆうきえつこ／文 岩崎書店

「ママ、あのね」と、ウサギやペンギン、ヤギなどの子どもたちが話しかける。それに応える母親は、優しいまなざしで子どもを見つめる。動物の親子の写真に、それぞれの様子に合った温かい会話がそえられている。〔赤ちゃん～〕

まよなかのゆきだるま

森洋子／作 福音館書店

クリスマスイブの夜、あっちゃんは自分が作った雪だるまに呼ばれて目をさます。サンタさんのそりが丘の木の枝にひっかかったという。あっちゃんは町の雪だるま達と協力して助けに向かった。鉛筆とペンで描かれたモノクロームの雪の世界に、唯一使われている赤色が印象的。〔幼児～〕

ミスターワッフル！

デイヴィッド・ウィーズナー／作 BL 出版

黒猫のワッフルは、飼い主が買ってきたおもちゃには見向きもしない。そんなワッフルが、夢中になるおもちゃを見つける。実はそれは小さな宇宙人が乗っている宇宙船だった。ほとんど文章がないこまわりの絵で、視点を変えながら映像作品のように楽しめる絵本。〔コルデコット賞オナーブック（2014年）〕〔幼児～〕

みまわりこびと

アストリッド・リンドグレーン／文 キティ・クローザー／絵 講談社

冬の真夜中、人も動物もぐっすり眠る農場でたった一人起きている小人。小人は農場の中をすみからすみまで見回り、牛や馬、そして人間の子どもに、小人の言葉でそっと話しかける。スウェーデンの農家を守る妖精のお話。〔幼児～〕

ムーン・ジャンパー

ジャニス・メイ・ユードリー／文 モーリス・セングダック／絵 偕成社

静かな夏の夜。月明かりに照らされた庭で、裸足の子どもたちが飛び跳ね、踊る。自由にふわふわと遊ぶ子どもたちの楽しさが伝わってくる。モノクロームの絵とカラーの絵が交互に見開きで配置され、幻想的な夜を描いた美しい絵本。『月夜のこどもたち』の新訳・新装版。〔幼児～〕

メリーさんのひつじ ほんとうにあったおはなし

ウィル・モーゼス／さく こうのすゆきこ／やく
福音館書店

メリーは動物が大好き。ある日飼っていた子ひつじが学校の教室までついてきてしまう。童謡「メリーさんのひつじ」ができるまでの物語。農場や動物、人々の様子が丁寧に描かれている。〔幼児～〕

もりのふくろう

おおなり修司／文 おぼまこと／絵 絵本館

静かな森の夜。疲れたリスたちはぐっすり眠り、イノシシたちは気持ちよさそうに寝息をたてて眠る。そんな動物たちをフクロウはじっと見守っている。本当に動物たちの寝息が聞こえてきそうな絵で、幸せな森の夜のひとときを描く。〔幼児～〕

やぎのめーどん

たかくあけみ／作 福音館書店

女の子がやぎのめーどんと森にでかける。のんびり歩き草を食べていると、森の動物たちが集まってきた。めーどんがお乳をわけてあげると、動物たちは大喜びで踊りだした。「めーどん めーどん めーどんどん」というリズムが楽しく、やわらかい色彩で描かれた動物たちの姿が愛らしい。〔幼児～〕

やめろ、スカタン!

くすのきしげのり／作 羽尻利門／絵 小学館

夏休み、プールでマサトとサトシは悪ふざけが過ぎて友達のシンゴを怒らせてしまう。頭にきたシンゴは「やめろ、スカタン!」と叫び、学校から飛び出していった。ダイナミックな構図と色鮮やかな絵で描いた少年たちの夏の一日。〔小初～〕

槍ヶ岳山頂

川端誠／作 BL 出版

小学5年生の少年が、父親とともに燕岳と槍ヶ岳を縦走する。少年の視点から、登山の厳しさと感動を描き出した作品。〔小中～〕

ゆうぐれ

ユリ・シュルヴィッツ／作 さくまゆみこ／訳
あすなろ書房

クリスマスが近づく夕暮れ時、男の子はおじさんと散歩に出かけた。夕日が沈み、空がだんだん暗くなると、街には明かりが次々と灯る。やがて街中にきらきらとした光の世界が広がった。ゆっくりとした時間の流れの中に、華やいだクリスマスの雰囲気を感じられる絵本。〔幼児～〕

ゆきがくれたおくりもの

リチャード・カーティス／文 レベッカ・コップ
／絵ふしみみさを／訳 ポプラ社

大雪の日、学校が休校になる。しかし、知らずに登校してきたのは学校でいちばん勉強がきらいなダニーと、学校でいちばんきびしいトラッパー先生だった。うまがあわない二人だが、しづしづ授業を始めた。お互いを苦手とする二人に、雪があたたかい奇跡をおこす。〔小初～〕

雪のおしろへいったウツレ

エルサ・ベスコフ／作・絵 石井登志子／訳 徳間書店

誕生日に新しいスキーをもらったウツレは、雪が降るのを待って、すべりに出かけた。雪の森のあまりの美しさに、思わず冬の王様にお礼を言う。するとそこに全身が白く輝く不思議なおじいさんが現れた。北欧の森を舞台に、冬の訪れや季節の移り変わりを美しい絵で描く。〔幼児～〕

ゆきのひのいえで

まるやまあやこ／作・絵 学研教育出版

まなは、小さい妹の世話で忙しいお母さんに反発して家出をすることに。コートを着て帽子をかぶり長靴をはいて、雪がちらつく外へ出る。お母さんが気づいて来てくれるまで庭で一人待つことにした。母親にかまってもらいたい子どもの気持ちを、やわらかなタッチの絵で表情豊かに表す。〔幼児～〕

よかったね、カモのおちびちゃん

エヴァ・ムーア／文 ナンシー・カーペンター／絵 いまえよしもと／訳 BL 出版

ニューヨークの公園にカモの親子が住んでいた。天気の良い日に散歩にでたカモの親子。道路を渡っていくと、コガモたちが排水溝に落ちてしまう。それを見ていた消防士や市民たちの手により救出されたカモたちは、無事公園へ戻ることが出来た。実話を基にしたおはなし。〔幼児～〕

よくばりなカササギ

I. C. スプリングマン／文 ブライアン・リーズ／絵 どいあきふみ／訳 徳間書店

なんにも持たないカササギに友達のネズミがプレゼントをくれた。喜んだカササギは「もう少しほしい」と思い、あちこちからいろんなものを巣に集め始める。あまりにたくさん集めたので、ついには木の枝が折れてしまい……。本当に大切なものは何かを考える絵本。〔幼児～〕

4ひきのりっぱなこぐま

アーノルド・ローベル／さく こみやゆう／やく好学社

4ひきのこぐまたちは、おじいさんが読んでくれる本に書いてあるような「りっぱなくま」になろうとするが、失敗ばかり。それぞれ自分の特技を見つけるが、おじいさんは認めてくれない。あたたかい筆致のモノクロームの絵。〔幼児～〕

ライオンのひみつ

マーガレット・ワイルド／文 リトバ・ボウティラ／絵 木坂涼／訳 国土社

図書館の入り口にある石像のライオンはいつか動いてみたいと思っていた。ある寒い雪の夜、赤ちゃんを抱いた小さな女の子が、ライオンの像の前で倒れてしまう。ライオンが強くて動きたいと願うと、それにこたえるように心臓が動き出した。〔小初～〕

ルイのうちゅうりょこう

エズラ・ジャック・キーツ／作 田村恵子／訳 偕成社

家の古道具をからかわれたルイは、「その気になれば、ここにあるもので宇宙旅行にだっていける」と父親から言われる。そこでルイは宇宙船〈ルイ1号〉を作り、友人のスージーとともに飛び立つ。想像の世界を共有し体験する子どもたちの姿を、繊細な色使いとコラージュで描き出す。〔幼児～〕

K913 化 ぼくたちけっこうすごいかも くわくわとかぶかぶのおはなし

いとうひろし／作 徳間書店

クワガタのくわくわとカブトムシのかぶかぶは、気の合う友達同士。種類は違うが、のんびりした性格がよく似ている。一緒に遊ぼうと待ち合わせをするが、場所を決めていないうえに、お互いに寄り道をして会えない。けれども、最後は不思議と出会ってしまう。

K913 材 はっぱのきつねさん

岡本颯子／作・絵 あかね書房

きつねくんの大好きな木から、葉っぱが1枚落ちてきた。その葉っぱはきつねの女の子に変身し、一緒に楽しく遊ぶ。しかしある日、女の子が大きな風に飛ばされてどこかへ行ってしまった。きつねくんは探しに行くことにする。

K913 材 3人のまじょとドラゴン

おおともやすお／さく・え 偕成社

便利な乗り物を手に入れるため、3人の魔女は赤ちゃんドラゴンを盗み出した。ところが、思った以上にドラゴンはやんちゃで手にあまる。困ったすえに、もとの飼い主に返そうとするが、断られてしまう。

K913 材 ふしぎなよるのおんがくかい

垣内磯子／作 小林ゆき子／絵 小峰書店

ある秋の夜、虫たちはオーケストラを作ることにしたが、なかなかうまくいかない。そこで、人間の有名な指揮者リードさんに頼むと、たちまち素晴らしいオーケストラになった。すると、それを聞いていた猫や星が、次々リードさんに指揮を頼みにくる。

K913 材 ハカバ・トラベル えいぎょうちゅう

柏葉幸子／作 たごもりのりこ／絵 BL出版

まことの通学路には、旅行代理店「ハカバ・トラベル」がある。ある日前を通りかかると、女の人の幽霊に出会った。幽霊は代理店に旅行を頼みたいと言うが、店員は逃げ出してしまう。幽霊がどうしても行きたいと言うので、まことは店員の代わりに連れて行ってあげることにする。

K913 材 くさいはんになんをさがしだせ！ 1 ねんおもしろたんていだん

川北亮司／作 羽尻利門／絵 新日本出版社

学校のトイレがくさいので、犯人を探してみるとカメムシだった。しかし、ゆいはその匂いを、どこかでかいだことがあると感じる。そこで、友だちと一緒に何の匂いか調べてみることにした。

K913 材 ともだちのまほう

北川チハル／作 つがねちかこ／絵 あかね書房

やこちゃんはひめちゃんと大の仲良し。泣き虫のひめちゃんを笑顔にしてあげるのは、やこちゃんの仕事だった。しかし、ひめちゃんは席替で隣になったたおくと仲良しになる。2人のことが憎らしくなったやこちゃんは、気がつくとう鬼になっていた。

K913 材 げんきのみかた パンツちゃん

薫くみこ／作 つちだのぶこ／絵 ポプラ社

引越してきたばかりのさあちゃん。友だちもいないし、ママと一緒になければどこにも行けない。ところがある日、さあちゃんが寝ている間にママが出かけてしまう。ひとりぼっちのさあちゃんが泣いていると、前の友だちにもらった「パンツちゃん」の絵が動き出した。

K913 材 あひるの手紙

朽木祥／作 ささめやゆき／絵 佼成出版社

ある日、ほんまち小学校の1年生あてに手紙が届く。手紙にはひらがなで「あひる」と書いてあるだけ。差出人はけんいちさんという、ひらがなを覚えてばかりの24歳の男の人だった。1年生のみんなは、けんいちさんとしりとりを使った文通を始める。実話をもとにしたお話。

K913 ㉮ おはなしきょうしつ

さいとうしのぶ／作・絵 PHP 研究所

ものさしは、なんでも正確に長さを測る。しかし、ある時消しゴムから自分の長さを聞かれ、ものさしは困ってしまった。どうやって測ればいいのか。学校の教室にあるものや筆記用具のお話を、見開きで1話ずつ収録。

K913 ㉯ きょうりゅうじゃないんだ

齊藤洋／作 高島純／絵 PHP 研究所

科学者のおじいちゃんは、ぼくたちが住んでいるこの世界だけでなく、いろいろな世界の研究をしている。今日は、恐竜が住んでいる世界「きょうりゅう・ランド」に何か異変が起こったようだ。おじいちゃんの助手をつとめるぼくは、ワンダー・ワゴンに乗り込み、調査に出発する。

K913 ㉺ ぼくとお父さん

清水千恵／作 山本祐司／絵 文研出版

ある日突然お父さんが亡くなった。けんは寂しさから吃音になり、お父さんと一緒にがんばってきた野球もやめてしまった。しかし親友のたいちの優しさに触れ、お父さんの死と向き合い、再び野球をがんばることを決意する。

K913 ㉻ のっぺらぼうのおじさん

そうまこうへい／作 タムラフキコ／絵 講談社

とおるは公園で似顔絵描きのおじさんを見つけた。絵を描いてもらうが、全然似ていない。絵の得意なおとるが手本を見せると言うが、なんとおじさんはのっぺらぼうだった。とおるは逃げ出そうとする

が、思い直しておじさんの顔を描いてあげることにする。

K913 ㉼ ゲーゲーバイキング

たちのけいこ／作 佼成出版社

小さな島に住む4匹の猫が、おいしいものを探しに海へ旅立つ。お腹をゲーゲー鳴らしながら進む不気味な船は、「ゲーゲーバイキング」と恐れられ、噂になった。そんなある日、4匹はカモメから宝の地図をもらう。

K913 ㉽ ルウルウおはなしして

たかどのほうこ／作・絵 岩波書店

ルウルウは、子ども部屋の人形やおもちゃたちを使って、楽しいお話を作るのが大好き。今日は、ふたごの人形さらんとぼんぼんがこの家に来たときのお話。まだ2人がさくらんぼだったとき、ミソサザイのソソッカスが2人を家に誘った。くちばしでくわえて、連れて行ってくれると言う。

K913 ㉿ おはなしカイとナツ あるふたごちゃんのものごと

中村翔子／作 たるいしまこ／絵 リーブル

双子のカイとナツは、いつも全部同じでないと気がすまない。ある日、ナツがカイの青い靴下をはきたいと言って聞かないので、お母さんは2人の靴下を半分こして、ケンカをおさめる。双子とお母さんのお話7編。

K913 ㊀ おせっかいゆうれいアツシさん

中宮洋子／作 倫子／絵 国土社

大好きなあいちゃんにいいところを見せたいショータは、苦手なきもだめしの練習にでかけた。そこでアツシさんという幽霊と出会い、鍛えてやると言われる。しかし、なかなか強くなれないショータに、アツシさんは秘密のおまじないを教えてくれる。

K913 カ そうだ、おてがみかこう

なりゆきわかこ／作 いりやまさとし／絵 ポプラ社

あやは入院中の父のそばで過ごし、あまり幼稚園に行かなかった。そのため、小学校にあがっても友だちの作り方がわからない。仲間に入れずいじめられるようになるが、先生の助けでクラスメイトと仲良くなれた。そんな時、先生が学校を辞めてしまう。

K913 ニミ こぶたのぶーぶ

西内ミナミ／作 真島節子／絵 福音館書店

1人暮らしのこぶたのぶーぶは、しばらく忙しくて掃除ができず、家の中は散らかり放題。掃除を始めたぶーぶだが、汚れるたびに替えるので、とうとう着るものがなくなってしまう。そこで、ぶーぶは最後の1着を思い出す。

K913 ニュ たっくんのあさがお

西村友里／作 岡田千晶／絵 PHP 研究所

1年生の友子は、隣の席のたっくんが苦手。ある日、友子は授業で育てているあさがおの植木鉢をうっかり倒してしまう。それはたっくんの鉢だった。なかなか芽が出ないことに、友子は責任を感じる。そこで、おたふく風邪で休んでいるたっくんの代わりに、毎日水をやることにした。

K913 ニュ コロッケくんのぼうけん

二宮由紀子／作 あべ弘士／絵 偕成社

カニクリームのコロッケくんは、缶詰の空き缶と歯みがきコップを道連れに旅に出る。人間のジョーも仲間になり、4人の船旅がはじまった。旅をするうち、コロッケくん以外の3人は、旅先でそれぞれの新しい居場所を見つけていく。

K913 杵 こねこのレイコは一年生

ねぎしたかこ／作 にしかわおさむ／絵 のら書店

子猫のレイコは、「丘の上電気」のご主人に飼われることになった。丘の上町では、猫の子も人の子と同じく学校へいく決まりになっていて、レイコも猫だけの茶畑小学校へ通う。ある日の授業では、事故にあつて足をなくしてしまったおじいさんに話を聞いて、交通安全について考える。

K913 ミミ ひなまつりのお手紙 3月のおはなし

まはら三桃／作 朝比奈かおる／絵 講談社

ゆいは、行儀作法に厳しいおばあちゃんが少し苦手。ある日、ひな人形を飾る手伝いをしていると、小さな重箱の中から古い手紙を見つける。その手紙は、おばあちゃんのおばあちゃんからの手紙だった。

K913 マツ 白い自転車、おいかけて

松井ラフ／作 狩野富貴子／絵 PHP 研究所

お姉ちゃんは白い自転車をもらって以来、ゆかとは遊んでくれない。寂しさのあまり、ゆかは自転車の鍵を隠してしまう。しかし、悲しそうなお姉ちゃんと遊んでも楽しめない。しかも、そのせいで自転車が盗まれてしまった。罪悪感から、ゆかはひとりで探しに行く。

K913 ミサ おたまじゃくしのたまちゃん

深山さくら／作 山本祐司／絵 佼成出版社

同じおたまじゃくしなのに、たまちゃんには仲間たちのような足がなかなか生えてこない。仲間はすぐに立派なかえるになって、池を出て行ってしまふ。しかしたまちゃんだけ一向に足が生えず、とうとう寒い冬がやってきた。越冬し、ゆっくりと大きく成長するウシガエルのお話。

K913 ミシ ダンゴムシだんごろう

みおちづる／作 山村浩二／絵 鈴木出版

ダンゴムシのだんごろうは、おっかさんと弟たちを養うため、食料を探す旅に出た。その道中、特技をいかして、アリのお姫様やカブトムシの力士たち

を助けてやる。時代劇装束の虫たちが活躍する、シリーズ1作目。

K913 ㄟ ノンキーとホンキーのカレー屋さん

村上しいこ／作 こばようこ／絵 佼成出版社

カレー屋を開くことにしたノンキーとホンキーは、翌日の開店に向けて準備を始める。けれども、慌しく働くホンキーは、のんびりしているノンキーを邪険にする。仕方なくお使いに出たノンキーだったが、その途中で頼まれごとを断れず、看板屋のお手伝いをするようになった。

K913 ㄟ かあさんのしっぽっぽ

村中李衣／作 藤原ヒロコ／絵 BL 出版

結衣の家は老舗の和菓子屋だが、最近は近所の洋菓子店に押されぎみ。ある日、結衣はキツネが母親になりすますという民話を知る。そういえば、結衣の母さんは最近怒ってばかり。実はキツネが化けているのではないかと考えると、だんだんキツネにしか見えなくなってしまう。

K913 ㄟ りんごの花がさいていた

森山京／作 篠崎三朗／絵 講談社

サブロは、故郷からは遠く離れた街の工場で働いている。母が亡くなったので休暇をもらって帰り、形見にいすをもらった。ところが、工場へ帰ると、休暇の期日を過ぎていたために解雇されてしまう。路頭に迷っていると、いすがきっかけで出会った娘と再会し、働き口を紹介してもらう。

K913 ㄟ あしたあさってしあさって

もりやまみやこ／作 はたこうしろう／絵 小峰書店

くまのこは、お父さんが帰ってくるのが「しあさって」と聞き、待ち遠しくてたまらない。翌日、友達から明々後日が明後日になったと教えてもらい、明日や明後日の概念を学んだ。くまのこは、覚えた

ての日を数えながら、お父さんが戻るのを楽しみに毎日を過ごす。

K913 ㄟ おまかせ！しゅくだいハンター

山野辺一記／作 常永美弥／絵 金の星社

けんたろうがまだ出していない宿題を、「今晚やる」と宣言した。先生は「早くしないとしゅくだいハンターが来る」と言う。けんたろうは、ハンターに宿題をやってもらおうと電話をかけて呼び出した。しかし、やって来た男は宿題を落書きだらけにしてしまった。

K913 ㄟ らくたいおばけがやってきた

やまだともこ／作 いたうみき／絵 金の星社

さとしは、テストになると緊張してうまくできない。ある日、占い師のおばあさんに、願いをかなえてくれるというカードをもらう。さとしはうっかり「おばけに会いたい」と願ってしまい、おばけ見習いのれいたろうがやってくる。れいたろうも、おばけのテストに合格できずに困っていた。

K913 ㄟ こむぎのともだち

吉田道子／作 ヤマグチタク／絵 フレーベル館

こむぎは友達を作るのが苦手。お兄ちゃんがいろいろアドバイスをしてくれるが、なかなかできない。そんなとき、魚屋のおじさんが友だちを紹介してくれる。それは人に化けたクマの子だった。クラスメートになったクマの子をきっかけに、こむぎは友だちの輪を広げていく。

K913 7a まよなかのぎゅうぎゅうネコ

葦原かも／作 武田美穂／絵 講談社

孫を迎えに行くという夢のため、トミエさんは自動車学校へ通っている。しかし失敗ばかりで、いっこうに上達しない自分に嫌気がさしていた。ある晩、散歩に出かけると、無人の自動車学校で猫の集会に出くわす。そこで猫たちに導かれ、トミエさんはしっかり前を見て運転できるようになる。

K913 7b 犬をかうまえに

赤羽じゅんこ／作 つがねちかこ／絵 文研出版

犬が大好きな空斗は、犬の散歩ボランティアをすることになった。やんちゃな犬チャッピーを扱うのは大変なので、しつけを始めるがうまくいかない。苛立ちから、空斗はチャッピーを叩き、逃がしてしまう。ドッグカフェで保護されるが、そこでチャッピーの悲しい過去が語られる。

K913 7c ゆいはぼくのおねえちゃん

朝比奈蓉子／作 江頭路子／絵 ポプラ社

小学校3年生のヒロトには、3つ年上のお姉ちゃんがいるらしい。今まで聞いたこともなかったのに、やむをえない事情から、突然一緒に住むことになった。異母姉弟のぎこちない距離と、打ち解けていく過程を丁寧に描く。

K913 7d あたらしい子がきて

岩瀬成子／作 上路ナオ子／絵 岩崎書店

弟ができた。お母さんたちは新しい子に夢中で、みきには見向きもしない。みきは自分が古い子どもになったと考え不安になる。そんなある日、心が子どもそのままのおばあさん、よしえちゃんと出会う。よしえちゃんとの交流を通し、みきは弟を受け入れる。

K913 8a ていでん★ちゅういほう

いとうみく／作 細川貂々／絵 文研出版

いつもいばりちらしている姉ちゃんだが、1年生のゲンよりも弱くなってしまいう時もある。両親が留守の夜、停電になったうえに懐中電灯も電池切れになり、姉ちゃんは泣き出してしまふ。ゲンは勇気をふりしぼり、姉ちゃんのために電池を買いに外へ出る。

K913 8b 鮎はママの子

石井睦美／作 網中いづる／絵 そうえん社

鮎は、学校で事件があるといつもママに報告する。ある夜鮎がゴミ箱を蹴飛ばしたことが原因で、2人はケンカした。翌日、鮎は謝らずに学校へ行ってしまう、ママは落ち着かないまま帰りを待つ。しかし、帰ってきた鮎は、いつも通り学校のことを話し始めた。

K913 8c わたしちゃん

石井睦美／作 平澤朋子／絵 小峰書店

住み慣れた町から、街中へ引っ越してきたまり。大好きな祖父母も友達もいない街で、まりは自身自身に話しかけ、ひとりで遊んでいた。ある日、街で出会った女の子と仲良くなるが、その子は「わたし」と名乗る。

K913 8d さよなら、ぼくのひみつ

漆原智良／編著 進藤かおる／画 国土社

アリサはいつも汚い身なりをしている。ユキヒロは、だらしないせいだと思っていたが、あるきっかけでアリサの家庭環境が悪いことを知る。そして、ユキヒロ自身が受けている虐待にも気づかされ、2人は勇気を出して大人に話す。他、子どもの抱える様々な問題を描いた作品4編。

K913 8e いろはのあした

魚住直子／作 北見葉胡／絵 あかね書房

小学3年生のいろはは、気が強くて怒りっぽい。友だちの誕生会に自分だけ招かれず、むしゃくしゃしているときに、弟からおみくじをもらった。書かれていた開運のアドバイスを試しにやってみよう。いろはは、変化が訪れる。毎日少しずつ成長していく少女の姿を描く。

K913 才 怪獣イビキングをやっつけろ！

岡田依世子／作 板垣トオル／絵 国土社

千奈子のパパのいびきは、近所から苦情が出るほどうるさい。原因は不健康な食生活だ。千奈子は、ある夜、怪獣イビキングがパパを飲み込んでしまう夢をみる。イビキングから救うため、千奈子はいびきを治してあげることにした。

K913 杵 あなたの夢におじゃまします

岡田貴久子／作 たんじあきこ／絵 ポプラ社

その日、晴人は絶好調だった。とても良い日だったので、帰り道にある小さな祠にお礼をした。そして「これからもずっとよろしく」と頼む。すると夢の中にキツネの神様が現れ、ずっと一緒にいるために手伝ってほしいと言う。それは、人びとの願いをかなえる手伝いだった。

K913 かい びんのなかのともだち

垣内磯子／作 松本春野／絵 偕成社

そうたが拾った汚いビンから、小さなおじいさんが出てきた。自分のことを仙人だと言うが、そうたは信じられない。いまいち頼りない仙人と秘密の時間を過ごすうち、2人の間には友情が芽生えるようになる。

K913 加 ふしぎなトラのトランク

風木一人／作 齊藤雨臈／絵 鈴木出版

ある日、町にトラがやってきた。トランクをさげ、図書館や公園、レストランなどにあらわれては、トランクを少しだけ開けて呪文をとこなえる。一通り町

を回ったあと、トラが丘の上でトランクを開けると、中には小さな町が入っていた。

K913 加 赤い首輪のパロ フクシマにのこして

加藤多一／作 汐文社

東日本大震災による損害で、福島第一原子力発電所は爆発した。小学5年生のユリカは、福島県に飛散した放射性物質から逃れ、母と北海道へ避難する。しかし、故郷には祖父母と父、そして飼い犬のパロを残してきていた。子どもの視点で原発事故のその後を見つめる。

K913 コル きょうから飛べるよ

小手鞠るい／作 たかすかずみ／絵 岩崎書店

4年生になる年の春、さくらは入院することになった。長引く治療に落ち込みはじめたさくらのもとに、手紙が届く。さくらは「花さかじいさん」と名乗る差出人に導かれ、鳥の巣を発見する。鳥たちの懸命に生きる姿を観察するうち、さくらも次第に元気づけられていく。

K913 七 七夕の月

佐々木ひとみ／作 小泉るみ子／絵 ポプラ社

仙台で七夕かざりの職人をしていた祖母が、危篤になった。東京から引っ越してきた和也には、七夕に対する地元の人たちの思いが理解できない。しかし、クラスメイトのアキとともに祖母の最後の願いをかなえようと奔走するうち、次第に祭に魅せられていく。

K913 マ ぼくのミラクルドラゴンばあちゃん

さとうまきこ／作 勝川克志／絵 小峰書店

航の祖母は少しボケている。海で死んだ息子のことが忘れられず、孫の航のことを息子だと思いつつ。しかし、水泳のテストがうまくいかなくて悩んでいる時や、家族旅行が駄目になった時、祖母がきっかけで不思議なことが起こり、航を助けてくれる。

K913 ㉮ コケシちゃん

佐藤まどか／作 木村いこ／絵 フレーベル館

くるみのクラスに、スイスからの転校生「京」がやってきた。見た目はコケシにそっくりな日本人だが、はっきり意見を述べる京は、日本人とは違う雰囲気を持っていた。内気なくるみは、その堂々とした姿がうらやましいと思うが、京はくるみのような気づかいがスイスにはないと言う。

K913 ㉯ 手作り小路のなかまたち

新藤悦子／著 河村怜／絵 講談社

手作り小路にある店には、一風変わった客たちがやってくる。ある時、女の人が、「持っているだけで幸せに見える袋」を求めてやってきた。カード屋のかなめは、カフェに集まった小路のみんなと知恵を出し合って解決する。

K913 ㉺ かぐやのかご

塩野米松／作 はまのゆか／絵 佼成出版社

学校でおならをしたとからかわれた清香は、帰り道の山の中で泣いていた。そこへおばあさんがやってきて、竹を取るのを手伝ってくれと言う。取った竹でかごを編むおばあさんと話しているうちに、清香の心は軽くなる。

K913 ㉻ 3びきのお医者さん

杉山亮／作 大矢正和／絵 佼成出版社

マリさんは、息子から森の中にある家をもらう。家の近くには、動物の経営する病院が3つあった。耳が聞こえにくいマリさんは診てもらうことに。ところが、どの病院もいんちきばかり。動物たちは、人間のせいで怪我をする仲間を放っておけず、素人なりに病院を始めたのだと言う。

K913 ㉼ ふしぎねこりん丸

竹内もと代／作 松成真理子／絵 アリス館

猫のりん丸は、飼い主のすずさんが大好き。しかし、すずさんがしばらくいなくなると聞き、りん丸

は動揺する。どうしていなくなってしまうのか尋ねたくて、一生懸命口を動かすと、りん丸は人の言葉を話せるようになった。

K913 ㊀ あしたの空子

田森庸介／さく 勝川克志／え 偕成社

ある晩、信一が寝ていると、部屋に知らない女の子が入ってくる。不思議な夢だと思っていた矢先、その子が同じクラスに転校してきた。彼女は、地球を救うために未来からやってきたと言う。そして、そのためには信一の協力が欠かせないと打ち明ける。

K913 ㊁ まほろ姫とブッキラ山の大テング

なかがわちひろ／作 偕成社

まほろ姫は、タヌキの乳母に育てられた。タヌキの乳兄弟茶々丸と共に、天狗がくれる葉っぱで化ける練習をしている。葉を使いすぎてしまった2人は、天狗の住むブッキラ山までこっそり取りに行くことにした。しかし茶々丸が天狗の怒りに触れ、石になってしまう。

K913 ㊂ ひらめきちゃん

中松まるは／作 本田亮／絵 あかね書房

葉月のクラスにやってきた転校生は、少し変わった女の子だった。「ひらめきちゃん」というあだ名の通り、男子にからかわれてもアイデアを使って撃退してしまう。内気な葉月は、そんなひらめきちゃんと一緒にいると楽しかったが、ある日、自分たち2人が陰口を言われていることを知る。

K913 ㊃ すてもる

はやみず陽子／作 鈴木びんこ／絵 佼成出版社

啓太は、捨てられた動物を放っておけない。次々拾ってきてしまうが、毎日の世話は大変でさぼりがち。そんなある日、啓太は庭でモルモットを見つけ。なんとか捕獲するが、家ではもう飼えないと言

われる。動物を捨てる立場になることで、生き物を飼う責任の重さを知る。

K913 71 しゅくだいさかあがり

福田岩緒／作・絵 PHP 研究社

夏休みもあと1週間、ゆうたはさかあがりの宿題を思い出した。できない子は夏休みにできるようにしておかなくちゃならない。遅くまでさとしに練習を見てもらうが、うまくいかない。一度は投げやりになるが、さとしや両親のさりげないサポートを受け、ゆうたはとうとうさかあがりができるようになる。

K913 14 モーモー村のおくりもの

堀米薫／作 岡本順／絵 文研出版

母を亡くした美咲は、思い出の残る家で過ごすうち、次第にふさがちになる。そんな時、動物の医者である父が、遠い山の中のモーモー村で働くことになった。1年だけと約束して村へやって来た美咲は、村人たちのあたたかい雰囲気の中で、元気を取り戻していく。

K913 77 なんでそんなことするの？

松田青子／作 ひろせべに／画 福音館書店

猫のミケは、トキオが毎日浮かない顔をして帰ってくることに気づく。トキオは、学校に持っていっているトラのぬいぐるみのことでいじめられていた。学校についてきたミケは、クラスメイトたちに恐ろしい方法で復讐しはじめる。友だちを守るため、トキオは勇気を出して「いじめをやめて」と言う。

K913 74 グッバイ山でこんにちは

間部香代／作 山口マオ／絵 文研出版

サルのパエールは、変わりばえのしない毎日に不安を覚え、もっと特別な1日にしたいと考える。そこで、毎日夕日が沈んでいくグッバイ山の向こう側に行ってみることにした。パエールは、山にトンネルを掘って向こう側を目指す。

K913 ミ 漢字だいぼうけん

宮下すずか／作 にしむらあつこ／絵 偕成社

旅行に行っていたおじいちゃんとおばあちゃんのお土産は、見ざる言わざる聞かざるのポーズをとったサルの置物だった。すうくんは、おじいちゃんの書いた「見・聞・言」という字の中に、目や耳や口が入っていることを発見する。漢字の世界を楽しむ物語。

K913 15 ねこ探！ ねこもしゃべれば事件にあたるの巻

村上しいこ／作 かつらこ／絵 ポプラ社

猫のピースは2匹の猫とともに探偵団を結成している。ある日、商店街の七夕祭を中止しろという脅迫事件が起こった。ピースたちは犯人探しに乗り出すが、捜査は難航する。そこで、飼い主の少年に助っ人を頼むことにする。

K913 101 ユッキーとともに

最上一平／作 陣崎草子／絵 佼成出版社

岳志の犬だったユッキーが死んだ。実感のわかない岳志は、ユッキーの故郷である母の実家へ1人旅をする。穏やかな田舎の暮らしを体験するうちに、岳志は今まで考えないようにしてきたユッキーへの愛情を自覚し、その死を受け入れる。

K913 102 魔女バジルと魔法のつえ

茂市久美子／作 よしざわけいこ／絵 講談社

試験の日に寝坊してしまい、バジルは憧れていた魔女の弟子になれなかった。山の上に住むマジョラムが弟子にとってくれると言うが、そのためには流れ星を捕まえなければならない。バジルは、苦手なほうき乗りの練習をあきらめずに続ける。するとそのうちに、特別な力を身につける。

K913 107 青い空がつながった

毛利まさみち／作 うめだゆみ／絵 新日本出版社

宮城県石巻で東日本大震災にあい、広島へ引っ越してきた麻美。新しい学校にも慣れた頃、麻美は公園で子犬を拾う。その子犬もまた偶然東北から避難してきたのだった。麻美は運命を感じるが、マンションでは飼えないと言われてしまう。1匹の子犬が石巻と広島を結びつける、不思議な縁の物語。

K913 ミミ とんだ、とべた、またとべた！

森山京／作 黒井健／絵 ポプラ社

木の上に住むリスのおじいさんは、木の下でなわとびの練習をするクマの子を見つける。毎日練習するのを見て、こっそり応援していたが、とうとう十回飛べた日、思わず声をかけてしまう。年齢の壁を越えた友情の物語。

K913 ヤ 先生、しゅくだいわすれました

山本悦子／作 佐藤真紀子／絵 童心社

宿題を忘れてしまったゆうすけは、先生に嘘をつくがばれてしまう。しかし、先生は上手な嘘ならだまされてくれると言う。翌日、ゆうすけは考えてきた嘘を話し、宿題を免除される。すると、その次の日には優等生のりなが宿題を忘れたと言い出した。

K913 ヤ ななとさきちゃん ふたりはペア

山本悦子／作 田中六大／絵 岩崎書店

ななの小学校では、1年生と6年生がペアになる決まり。ななはさきちゃんとペアになるが、なんだか頼りない。しかし、ななが遠足でおもらししてしまったとき、さきちゃんの機転で誰にもばれずにすむ。ななはさきちゃんだけの長所を見つけ、本当のペアになることができた。

K913 ヤ あの日とおなじ空

安田夏菜／作 藤本四郎／絵 文研出版

ダイキは、夏休みに沖縄のひいおばあの家へやってきました。そこでおばあから戦争の話を聞くが、おばあは途中で話せなくなってしまいます。遠い昔のことなのに、今も苦しんでいるその姿に、ダイキは何かし

てあげたいと思う。そんな時、沖縄の伝説の妖怪キジムナーと出会い、不思議な体験をする。

K913 ヤ 飛べ！風のブーメラン

山口理／作 小松良佳／絵 あかね書房

とうちゃんがうつ病になった。幹太はとうちゃんの変化に戸惑い、周囲に苛立ちをぶつけてしまう。しかし、仲間たちとブーメランの練習に打ち込む中で、他人を思いやる気持ちに気づく。様々な人の思いに向き合いながら、幹太は大会へ挑む。

K913 マ 虫ロボのぼうけん カブトムシに土下座！？

吉野万理子／作 安部繭子／絵 理論社

テレビが壊れて、大好きなゲームができなくなった志馬は退屈していた。すると祖父が、完成したロボットに乗ってみたいかと声をかけてきた。体を小さく縮めて、虫型のロボットを操縦するのだという。2人は雑木林へ飛び、カブトムシを訪ねる。

K929 ヤ ぼくのレオおじさん ルーマニア・アルノカ平原のぼうけん

ヤネッツ・レヴィ／作 もたいなつ／訳 学研教育出版

レオおじさんは、いつも冒険の話をしてくれるが、家族からはホラばかりふくと思われている。でも、ぼくはおじさんの話が大好きだ。たとえばある時、おじさんは、ルーマニア・アルノカ平原にいた。そこでうっかり雲に乗って飛ばされてしまう。おじさんは地上に降りようと様々な手を尽くす。

K933 ニ お話かせてクリストフ

ニキ・コーンウェル／作 渋谷弘子／訳 文研出版

故郷のルワンダで祖父のお話を聞いて育ったクリストフは、逃れてきたイギリスの学校でお話が本になっていることが理解できない。お話は語ってこそだという祖父の教えを守り、クリストフは自分が

ルワンダの紛争で体験したことをクラスで話して聞かせる。

K933 ㊦ げんきなぬいぐるみ人形ガルドラ

モドウィナ・セジウィック／さく 多賀京子／やく 福音館書店

手作りのぬいぐるみ人形のガルドラは、ある日、小川に落ちて流されてしまう。水に濡れてしまうし、家に帰れるのかもわからなかったが、ガルドラはいつか帰ることができるかと信じて慌てない。しばらくすると、困っている人に出会うが、惜しみなく手を差し伸べる。

K933 テシ レモネード戦争

ジャクリーヌ・デイヴィーズ／作 日当陽子／訳 フレーベル館

妹のジェシーが、飛び級することになった。兄のエヴァンは、妹と同じクラスになるのが嫌でたまらない。しかし、兄を慕うジェシーは、どうしてエヴァンが不機嫌なのか理解できない。やがて大ゲンカになった2人は、夏休みの5日間でどちらが多くレモネードを売れるか勝負する。

K933 ㊦ メリサンド姫 むてきの算数！

E・ネズビット／作 灰島かり／訳 小峰書店

メリサンド姫は、生まれた時から髪が生えない呪いをかけられていた。王様の宝物にお願いして髪がのびるようにしてもらおうが、母が「1日3センチ伸び、切ったらその倍伸びるように」と言ってしまう。次第に、姫は大変なことになっていく。お話の中に散りばめられた算数が、物語の世界を引き立てる。

K933 ヒ7 消えた犬と野原の魔法

フィリパ・ピアス／作 ヘレン・クレイグ／絵 徳間書店

大好きな飼い犬のベスがいなくなってしまった。その晩ティルは、不思議なおじいさんの夢をみる。翌朝、夢に出てきた場所へ行ってみると、「見つけ

屋」と名乗るおじいさんが待っていて、バスを見つけてくれると言う。

K933 マヒ チャーリー、ただいま家出中

ヒラリー・マックイ／作 富永星／訳 田中六大／絵 徳間書店

母さんと父さんは、兄さんばかりひいきする。いたずらっ子のチャーリーは、いつもみんなの邪魔者だった。ある日とうとう、隣家のヘンリーの部屋に家出する。チャーリーとヘンリーの家族は、さりげなくチャーリーの家出をサポートしながら見守る。

K933 リ7 オリバーとさまよい島の冒険

フィリップ・リーヴ／作 セアラ・マッキンタイヤ／絵 理論社

オリバーの両親は冒険家。久しぶりに家へ帰ると、海辺に見知らぬ島ができていた。両親は喜んで出かけていくが、オリバーは家に残る。いつまでたっても両親が帰ってこないの、オリバーは2人を探しに行くことにする。一つひとつの出来事に落ち着いて向かっていくオリバーの姿が印象的。

K943 ㊦ 落っこちた！

ザラー・ナオウラ／作 森川弘子／訳 岩波書店

それぞれ得意なことがある家族の中で、何の特技もないヘンリックは居心地の悪い思いをしていた。しかし、おばあちゃんが一緒に住むことになってから、ヘンリックの家族は変わってしまう。家の庭に宝が埋まっているという彼女の口車に乗せられ、一家は我先にと庭を掘り返しはじめたのだ。

K949 ト㊦ 氷の巨人コーリン

サカリアス・トペリウス／原作 スズキコージ／文・絵 集英社

北欧神話をもとにしたお話。コーリンは100年に一度目を覚まし、世界を見渡して眠りにつく。ある日、目を覚ましたコーリンは、世の中のあまりの変貌に驚く。人間の子どもを見つけたコーリンは、

自分の偉大さを証明するため、なぞなぞの勝負を持ちかける。

物語 5・6年生

K963 ハ7 ふたりは世界一！

アンドレス・バルバ／作 宇野和美／訳 偕成社
フワニートとベロニカは、新記録を作るのが大好き。2人は、世界記録を誰よりもたくさん持っている男に挑戦する。記録はことごとく男に破られ、新記録は出せないが、その失敗の数が新記録となる。記録を作る旅の中で、2人は記録に挑戦する意味に気づく。

K989 マ7 追え!!魔法の赤いイス

アジェイ・マレシュカ／著 久堀由衣／訳 講談社
ある日、クキは何でも願いを叶える赤いイスを拾う。クキの家族は、父母の所属していたオーケストラが解散してから、生活に困っていた。そこで、兄のフィリップが「パパとママに最高の仕事がほしい」とイスに願うと、父母は突然クキたちを置いて出稼ぎに行ってしまう。

K913 アミ ゆめみの駅遺失物係

安東みきえ／著 ポプラ社

由米美濃駅の遺失物係には、持ち主のわからなくなったお話が届く。「あたし」は自分のお話をなくしてしまい、遺失物係を尋ねた。係の人は「あたし」からヒントを聞くと、届いたお話をしまっている「拾得物語台帳」から1つずつお話を語ってくれる。

K913 件 ブサ犬クーキーは幸運のお守り？

今井恭子／作 岡本順／絵 文溪堂

お店で売れ残っていた不細工な犬を買ったのは、自分も売れ残りだと言うケイコさん。2人は楽しく暮らしはじめるが、ケイコさんが事故にあい入院することに。その間犬を預かることになったのは、ケイコさんの元恋人だった。人間に翻弄される飼犬の運命が、人間の人生をも巻き込んでいく。

K913 竹 きみは知らないほうがいい

岩瀬成子／作 長谷川集平／絵 文研出版

米利は、1人暮らしの祖母に晩ご飯を届けている。ある日、バス停でクラスメイトの路夫と出会う。行き先を尋ねると、「きみは知らないほうがいい」と言われる。後日、あとをつけてみると、路夫はホームレスのおじいさんと会っていた。いじめと向き合う小学生の複雑な心境を描く。

K913 竹 カッチン

いずみたかひろ／作 津田櫛冬／絵 小峰書店

友だちと野球をした帰り道、カッチンたちは見慣れない少女と出会う。翌日、彼女は同じクラスに転校してきた。桃子と言うらしい。気が弱く、友だちもあまりいないという桃子を、カッチンたちは明るく迎える。1959年、戦争の傷跡が残る神戸の町で、快活に生きる子どもたちの姿を描いた物語。

K913 い 空へ

いとうみく／作 小峰書店

父が突然他界し、小学6年生の陽介は父の代わりに家族を支えようとする。妹の陽菜が風邪をひいたときは、母に心配をかけないように1人で面倒をみる。家族のために自分を犠牲にしようとする陽介だったが、友達や周囲の人と関わりながら、次第に変わっていく。

K913 い 5年2組横山雷太、児童会長に立候補します！

いとうみく／作 鈴木びんこ／絵 そうえん社

友だちと「なんでも屋」をやっている雷太のもとに、6年生の新藤君がやってきた。雷太を児童会長に推薦したいと言う。仕方なく選挙活動を始めた雷太だったが、そのうちに学校の中の小さな問題に気づきはじめた。そして新藤君が児童会長にこだわる理由を知り、雷太はみんなが楽しい学校をつくりたいと思うようになる。

K913 わ 影なし山のりん

宇佐美敬子／作 佐竹美保／絵

村人たちが近づかない影なし山には、人を食うと言われる沼があった。りんは影なし山が大好きだったが、沼だけは近づかなかった。ところがある日、沼の中から歌が聞こえてくる。歌声に導かれ、りんが沼に話しかけると、そこには死んだはずの母がいた。

K913 わ ぼくと戦争の物語

漆原智良／作 山中桃子／絵 フレーベル館

第二次世界大戦末期、東京に暮らす心平は、福島へ疎開することになった。家族と離れ、寂しい思いをしながらも、父の言葉や友だちにもらったメンコに勇気づけられる。次第に生活にも慣れ、同じく疎開してきたこの洋太とも打ち解けるが、東京大空襲で家族を失い、孤児となる。

K913 お 夏休みに、翡翠をさがした

岡田依世子／作 岡本順／絵 アリス館

父が突然小説を書くと言い出し、母はお灸を据えようと家出した。玉江は両親に振り回され、納得できない思いを抱えていた。そんなとき、転校生の信彦が町に伝わる翡翠の伝説を聞き、幼馴染の哲平と共に翡翠探しを計画する。ひと夏の経験を通して、玉江は親や友人たち、それぞれの思いに触れる。

K913 た ひまり2. 3ミリの夏

大野圭子／作 古味正康／絵 文研出版

祖母が亡くなってから、祖父は元気がない。ひまりは元気づけようと、祖父の趣味だった水泳に誘う。プールの帰りに祖父のマンションでくつろいでいると、突然窓の外を何かが落ちていく。のぞいてみると、下にはゴミ袋があった。ひまりは犯人探しに乗り出す。

K913 か ヨコちゃんとライオン

角野栄子／文 網中いづる／絵 三越伊勢丹ホールディングス

銅像のライオンは言葉を話せるが、普通の人には聞こえない。けれどもある日、ヨコちゃんという女の子に話しかけられる。それから、ライオンはヨコちゃんの再訪を楽しみにし始めた。はじめは5歳だったヨコちゃんは、ライオンに見守られてどんどん成長していく。

K913 か 星のこども

川島えつこ／作 はたこうしろう／絵 ポプラ社

内気なゆいは、5年生のクラス替えで友だちと離れ、クラスに馴染めずにいた。音楽祭のピアノ伴奏に選ばれるが、自信が持てない。しかし、姉の妊娠や新しい友だちとの交流を通し、ゆいは少しずつ変わっていく。きっかけは、学校の池にすむという河童の話だった。

K913 加 サクラ・タイムトラベル

加部鈴子／作 スカイエマ／絵 岩崎書店

志保は、ひょんなことから苦手ないとこの龍之介と一緒に、歴史博物館へ行くことになる。歴史には興味のない志保が退屈していると、突然火災警報が鳴り出す。2人が非常扉から外へ出ると、そこは「享保の大火」が数日後に迫る江戸の町だった。時代を超えた人びととの交流を通し、少女の心の成長を描く。

K913 コ 図書室のふしぎな出会い

小原麻由美／作 こぐれけんじろう／絵 文研出版

サッカーの練習で足を捻挫した勝は、図書室の整理を頼まれる。地下倉庫の中で作業をしていると、不思議な女の子が現れ、本を探していると言う。後日、母の幼馴染と同じ名前だとわかるが、その子は5年生のときに亡くなっていた。

K913 ユ ブルースマンと小学生

こうだゆうこ／作 スカイエマ／絵 学研教育出版

鉄平の母は、お金がかかるからと少年野球のチームに入らせてくれない。担任の先生は、問題を起こす鉄平を扱いきれない。とうとう学校へ行くのをやめた鉄平は、昼間の公園でギターを弾く青年に出会う。まっすぐ夢を追う青年の姿は、鉄平に希望を与える。

K913 ヤ シロガラス 1 パワー・ストーン

佐藤多佳子／著 偕成社

白鳥神社では、毎年夏に子どもの剣舞が奉納される。来年の舞のために、社家の娘千里の同級生たち6人が選ばれた。個性あふれる6人の関係は一筋縄ではなく、舞への思いもそれぞれに違う。しかし、ある雨の降る晩、神社に伝わる巨石に全員が同時に触れた途端、不思議なことが起こる。

K913 ミ パオズになったおひなさま

佐和みずえ／著 宮尾和孝／絵 くもん出版

愛花の家のおひなまつりには、祖母の肉まんが欠かせない。それは「パオズ」といい、戦時中に暮らしていた中国のものだと言う。祖母はパオズ屋さんのリンと親友だったが、次第に戦況が悪化し、会えなくなってしまった。日本に帰ることが決まると、祖母は大切なおひなさまをリンにあげたいと考える。

K913 判 どろぼうのどろぼん

斉藤倫／著 牡丹靖佳／画 福音館書店

自称「泥棒」を捕まえた。刑事であるぼくは、とにかく話を聞いてみる。「どろぼん」と名乗るその泥棒は、持ち主に忘れられた物たちの声が聞こえるのだと言う。悲しい物たちの声に導かれ、どろぼんは泥棒を繰り返してきた。しかし、1匹の犬との出会いが、どろぼんの人生を変えていく。

K913 ㇿ 石の神

田中彩子／作 一色／画 福音館書店

まったく違う環境で育った2人の少年、捨吉と寛次郎。自ら石工の道を選んだ寛次郎と、親方に拾われて石工になった捨吉では、考え方や性格も違った。しかし、厳しくも優しい親方や兄弟子に見守られながら、2人はついに心を通わせる。それぞれの視点が交互に登場し、2人の心情が細やかに描かれる。

K913 ㇿ ガリばあとなぞの石

たからしげる／作 かとうくみこ／絵 文溪堂

お母さんが病気で亡くなり、お父さんは行方不明になった。誠大と千奈津は、父のおばさんガリばあの家で暮らすことになる。貧乏な生活に耐えていると、お父さんの研究仲間だった大久保という男が訪ねてきて、誠大にあるものを探してほしいと頼む。それさえ見つければ、家に帰れると言う。

K913 ㇿ いっしょにアムベ!

高森美由紀／作 ミロコマチコ／絵 フレーベ

ル館

木から落ちて骨折して以来、ノボルの足はうまく動かない。クラスでは腫れ物に触るように扱われ、5年生になってもノボルは孤立していた。そんなある日、東日本大震災で孤児になった少年、有田と一緒に住むことになる。反発しつつも、お互いの抱える孤独に触れ、2人は心を通わせていく。

K913 ト アヤカシさん

富安陽子／作 野見山響子／画 福音館書店

ケイには、10歳しか変わらない叔母さん、メイがいる。2人は、この世の存在ではないアヤカシを見ることができた。特殊な能力のせいで痛い目にあってきたメイは、ケイに関わってはいけないときつく諭す。しかし、お人よしのケイは困っているアヤカシを放っておかず、つい近づいていってしまう。

K913 マ ワカンネークエスト わたしたちのストーリー

中松まるは／作 北沢夕芸／絵 童心社

弟の和樹は、美琴と違って明るく朗らかで、両親からも大切にされている。美琴は弟ばかりひいきされ、おもしろくない。ところがある日、和樹のクラスで傷害事件が起きる。事件のショックから、和樹は部屋に閉じこもってオンライン・ゲームをするようになってしまう。弟を助けるべく、美琴はゲームの世界へ旅立つ。

K913 ヌ ハングリーゴーストとぼくらの夏

長江優子／著 山田博之／画 講談社

父の転勤で、シンガポールへ引っ越した朝芽。日本人学校に通い始めるが、なかなか馴染めずにいた。ある日、近所の植物園で雷に打たれて以来、同じ場所へ行くと、第二次世界大戦直後の時代を生きる男の人と出会うようになる。朝芽は、その人から探し物を頼まれる。

K913 ニス ぼくの、ひかり色の絵の具

西村すぐり／作 大野八生／絵 ポプラ社

ユクは絵を描くのが好き。父が透明水彩の絵の具を買ってくれたので、学校でも使っていた。ところが、それを知らない先生に、無理やり塗りたくない色を強要される。ユクはその絵をこっそり破り捨てた。しかし、クラスメイトの女の子ハネズは、ユクを理解してくれる。

K913 ミ カラスネコチャック

野田道子／作 オオノヨシヒロ／絵 小峰書店

真っ白な美しい母猫から生まれたチャックは、兄弟たちと違って真っ黒。母がいなくなってしまったあと、兄弟たちは容姿をいかして居場所を見つけていくが、チャックはなかなかうまくいかない。とうとう町で生きるのを諦め、母に聞いた話を頼りに、自分と同じ毛並みをもつ偉大な祖父を探す旅に出る。

K913 ヒメ メランコリー・サガ

ひこ田中／作 中島梨絵／画 福音館書店

クラスでどのグループにも入らず、自然と集まっただけのコトノハ、パル、700の3人は、性格も趣味もまったく違う。しかし、パルの父親がくれたゲームをきっかけに、3人は友達のあり方について考えはじめた。

K913 フ ブルーとオレンジ

福田隆浩／著 講談社

小柄で気の弱い少年ブルーは、目立たないように振舞ってもいじめられてしまう。一方、同じクラスの少女オレンジは、理由もないのに標的を決めるいじめが嫌だったが、声を上げることができない。しかし、2人は自分の長所に気づくことで、周囲を巻き込みながら変わっていく。

K913 ホ 焼き上がり5分前!

星はいり／作 TAKA／絵 ポプラ社

めぐるは、お母さんから靴を買うためにもらったお金で、ゲームを買ってしまう。そこで、おじいちゃんのパン屋でバイトを始めるが、なかなかたまらない。そんな時、幼馴染のあかりが「創作パン大賞」に応募することを提案する。友だちと力を合わせて賞金の100万円を目指す。

K913 マ 声の出ないぼくとマリさんの一週間

松本聡美／作 渡邊智子／絵 汐文社

シンは、仕事に打ち込む母の邪魔をしていると感じて、声が出なくなりました。そんな時、母が1週間アメリカへ行くことになり、シンは母の友だちと言うマリさんに預けられる。マリさんは明るくシンを受け入れてくれる。その朗らかな態度に、シンもいつしか打ち解けていく。

K913 マミ なみだの穴

まはら三桃／作 小峰書店

せつかく親友ができたのに、光太は父の都合で転校することになった。父に反抗して、絶対に泣かないことを決意する光太。ところが移動の船の中で、親友からもらったハムスターが逃げ出してしまう。捕まえる間に危険な場所へ来てしまい、光太は立ちすくむ。すると、突然海に穴が開き、中をのぞいた途端に涙がこぼれ始めた。

K913 ミ 鳥海山の空の上から

三輪裕子／作 佐藤真紀子／絵 小峰書店

翔太は家ではいつも頼りない末っ子だが、夏休みに1人で伯母の家へ行くことになる。はじめは不安だったが、伯母や近所の少女と打ち解けると、次第に楽しくなってくる。ところが母が帰って来いと言いだし、翔太は最後に伯母が大好きな鳥海山へ、一緒に登ることにする。

K913 ヤ あしたも、さんかく 毎日が落語日和

安田夏菜／著 宮尾和孝／絵 講談社

圭介は友だちにおせっかいと言われて以来、誰とも口をきかず、つまらない毎日を過ごしていた。ある日、圭介は4年前に失踪した祖父と再会する。落語家を志して挫折したはずが、見違えるほどうまくなっていた。圭介は祖父の姿に心を打たれ、何かしてあげたいと思うようになる。

K913 ヤ ロード キャンピングカーは北へ

山口理／作 佐藤真紀子／絵 文研出版

父が突然リストラされてしまった。能天気で頼りない父に、久斗や姉の千種は苛立ちを隠せない。しかも、突然キャンピングカーを買ってきて、家族旅行をしようと言い出す。それぞれが役割をもって協力し、旅の生活を支える中で、久斗は家族のあり方を見つめなおす。

K913 ヤ 時のむこうに いま、ここにいる

山口理／作 最上さちこ／絵 偕成社

祖母は、よく昔話をしてくれる。歴史が大好きな翔太は、いつしか平成より昭和の方が良かったと思うようになっていた。するとある日、妹の理子と一緒にタイムスリップしてしまう。ところが、戦争末期の現実、翔太の憧れていたものとはほど遠い時代だった。

K913 ヤ パン・ジャム・ミステリー 王女の赤い涙

山田りゅうこ／著 幻冬舎ルネッサンス

大人気小説『貴族探偵 ダニー・ボー』に憧れ、探偵事務所を開いたダン。ある日、白いオウムを捜してほしいという依頼を受け、仲間たちと解決する。気を良くしたダンは、最近世間を騒がせている怪盗を捕まえようと言い出す。独自に調査を進め、とうとう犯人逮捕に一役買うが、真犯人は別にいることに気づく。

K913 ヤ 少女探偵月原美音

横山佳／作 スカイエマ／絵 BL 出版

古画の修復をしていた父が、失踪した。警察はあてにならず、探偵もさじを投げた。美音は自分で捜すことに決め、情報収集のために私立探偵を営む七海のもとで手伝いを始める。一方、世間では、怪盗ジェントによる美術品の盗難事件が相次いでいた。美音は、七海とともに現場へ向かう。

K913 ㊦ 風船教室

吉野万里子／作 金の星社

父親の都合で、時生は山奥の小学校へ転校した。その学校では、入学と同時に名前入りの風船が1つずつ渡され、6年間同じものを持つ。転校した翌日、時生は自分の風船が勝手に動くのを目撃する。親友と離れ、不満を抱えていた時生だったが、同級生の林太郎と美湖とともに、風船の謎を調べ始めた。

K933 ㊦ 母さんが消えた夏

キャロライン・アダーソン／著 田中奈津子／訳 講談社

母さんが家に帰って来ない。養護施設に行きたくないカーティスは、母の不在を隠し、弟のアーティとその日暮らしをしていた。生活費がなくなり、次第に追い詰められていくが、近所の老婆が兄弟に手を貸してくれる。3人の奇妙な逃亡生活は、カーティスを心身ともに成長させるのだった。

K933 ㊦ 世界一幸せなゴリラ、イバン

Katherine Applegate／著 岡田好恵／訳 講談社

ゴリラのイバンは、ショッピングモールの中のサーカスで働いている。しかし、見世物の動物たちが年をとり、最近では客もあまり来ない。そんなある日、サーカスのボス、マックがイバンの絵を描く才能に目をつける。イバンの視点で語られる、実話を元にした物語。

K933 ㊦ ラモーゼ プリンス・イン・エグザイル 上・下

キャロル・ウィルキンソン／作 入江真佐子／訳

くもん出版

古代エジプト、ファラオの嫡男として生まれたラモーゼは、次期ファラオとして贅沢で幸せな毎日を過ごしていた。ところがある日、継母である王妃がラモーゼを亡き者にしようとしていることが発覚し、一旦王宮を離れ、町に身を潜めることになる。そこで出会った奴隷の少女や職人の少年の力を借りながら、ラモーゼは王宮を目指す。

K933 ㊦ ぼくは牛飼

サンドラ・ニール・ウォレス／作 渋谷弘子／訳 さ・え・ら書房

酪農家の1人息子のイーライは、はじめて自分の子牛をもらう。立派に育てて、品評会で優勝することを決意するが、父との価値観の違いや、命を預かる責任と直面することになる。1頭の子牛を育てることで、牛飼としての意識が芽生えていく。

K933 ㊦ 三千と一羽がうたう卵の歌

ジョイ・カウリー／著 デヴィッド・エリオット／絵 さ・え・ら書房

メンドリのセモリナは、飼い主のジョシュと2人きりの時にだけ人間の言葉を話し、鶏に伝わる神話を話してくれる。ある日、セモリナはキツネに襲われるが、機転をきかせて窮地を脱した。翌日にはジョシュの妹が無事に生まれ、セモリナは祝福とともに伝説の卵の歌を歌う。

K933 ㊦ サマーと幸運の小麦畑

シンシア・カドハタ／著 代田亜香子／訳 作品社

サマーの一家は、毎年小麦を収穫する出稼ぎに行く。今年は父母が不在のため、祖父母と一緒にいくことになった。サマーは仕事をしながら、弟の世話もしなければならず、今年はずいていないと嘆く。しかし、祖父が倒れ、消沈する祖母を見て、サマーの意識が変わっていく。日系アメリカ人の物語。

K933 ㄎ スパイスクール くしのびよるアナ グマ作戦を追い!

スチュアート・ギブス／著 橋本恵／訳 小学館

ベンはスパイに憧れる小学生。ある日学校から帰ると、家に見知らぬ男がいた。プロのスパイだと言うその男に連れられ、ベンはスパイの養成学校へ入ることになった。スカウトだと浮かれるベンだったが、実は学校の存亡をかけた極秘作戦のおとりにすぎなかった。

K933 ㄎ ゆうれい作家はおおいそがし 1 オンボロ屋敷へようこそ

ケイト・クライス／文 M. サラ・クライス／絵
ほるぷ出版

作家のイグナチウスは、長い間のスランプで借金まみれになっていた。新作に集中するため家を一軒借りるが、そこにはすでに1人の少年と幽霊が住んでいた。幽霊の意外な才能のおかげで、両親に見捨てられた少年と、スランプ作家のイグナチウスの問題は解決へと向かっていく。

K933 ㄎ ふたりのエアリエル

ノエル・ストレットフィールド／著 中村妙子／訳
教文館

出征した父が消息不明となり、ソレルたち3姉弟は会ったこともない母方の祖母の家で暮らすことになった。母方のウォレン家は演劇一家で、祖母は孫たちを演劇学校へ通わせる。はじめは気乗りしない3人だが、次第に才能を開花させる。特にソレルは、いとこのミランダと役を争うまでに成長する。

K933 テ ゾウがとおる村

ニコラ・デイビス／文 アナベル・ライト／画
さ・え・ら書房

ウィレンの村は、野生のゾウの通り道にある。森の中でゾウと共存しながら、焼畑農業によって生活してきた集落だったが、従来のやり方ではうまくいけなくなってきた。村もゾウも守りたいと願う

ウィレンは、勇気を出して行動を起こす。実在の村と支援団体を元にしたお話。

K933 ト わたしの心のなか

シャロン・M. ドレイパー／作 横山和江／訳 鈴木出版

メロディは、脳性まひの女の子。自力で動くことも、言葉を話すことさえままならない。知性は同学年の子どもたちと変わらないのに、言葉を話せないことでいつももどかしい思いをしている。しかし、言語を音声化する機械と出会い、メロディの生活は激変する。

K933 ㄎ アーデン城の宝物

E・ネズビット／著 井辻朱美・永島憲江／訳 東京創元社

イギリスの領主アーデン家のエルフリダとエドレッドは、今は没落して下宿屋に住んでいる。しかし、アーデン家に代々伝わる宝物さえ見つければ、城へ戻るができるという。2人はその鍵を握る白いモグラに会い、時をさかのぼって宝物のありかを探すことにした。

K933 ㄎ シャイローがきた夏

フィリス・レイノルズ・ネイラー／著 さくまゆみこ／訳 あすなる書房

ある日、マーティは1匹の犬と出会う。とても怯えていたが、根気強く接してやるとすぐに懐いた。しかし、その犬は乱暴者のジャドが飼っている猟犬だった。犬がジャドの元から逃げてきたと分かり、なんとか助けてやりたいと思う。そして犬が再び逃げてきた時、マーティはシャイローと名づけてこっそり飼うことにする。

K933 ハ サバイバーズ 1 孤独の犬

エリン・ハンター／作 井上里／訳 小峰書店

ある日突然、街は「アルファの嵐」によって瓦礫の山になってしまった。犬のラッキーは群れに属さ

ずに生きてきたが、元飼い犬の群れに出会い、窮地を救われる。成り行きで行動を共にするうち、ラッキーの中に長としての意識が芽生えていく。

K933 ハマ ぼく、悪い子になっちゃった！

マーガレット・ピーターソン・ハディックス／作 渋谷弘子／訳 さ・え・ら書房

転校初日、作文の課題が出された。自己紹介になるようなことと言われ、デクスターは今朝トイレで男の子をたたいたことを書く。すると、先生はもっと詳しく書けと言いつつ。作文に感情をぶつけていくうちに、デクスターは自分の本当の気持ちに気づく。

K933 77 おしゃれ教室

アン・ファイン／作 灰島かり／訳 評論社

ママが簿記の試験を受ける間、ボニーはまったく興味のない「おしゃれ教室」に行くことになった。そこでは人形のように着飾った女の子たちが、今日選ばれる「プリンセス」になるために競い合っていた。しかしボニーは照明係と間違われ、彼女たちのステージを演出することになる。

K933 79 マリゴールドの願いごと

ジェーン・フェリス／作 ないとうふみこ／訳 小峰書店

森に住むトロルの元で育ったクリスチャンは、お城を覗き見するうちに、マリゴールド姫に恋をする。伝書鳩で文通を重ね、2人は親友となる。クリスチャンはお城で働きはじめるが、姫には正体を隠していた。しかし、姫を脅かす王妃の陰謀を知り、いてもたってもいられなくなる。

K933 80 海をわたったビスクドール

ジョーン・ホルブ／作 かとうあさこ／訳 石川のぞみ／絵 国土社

ローズとリラの父母が、アフリカの医療支援に行くことになり、2人は祖母の元へ預けられることに

なった。これまで疎遠だった祖母だが、人形の修理を生業としていて、しかも人形と話ができると言う。興味津々の2人に、祖母は修理中のある人形の話語り始めた。

K933 87 希望の海へ

マイケル・モーパゴ／作 佐藤見果夢／訳 評論社

孤児のアーサーは大勢の仲間たちと一緒に、何も知らされぬままイギリスからオーストラリアへ渡った。そこで彼らを待っていたのは、牧場での過酷な労働だった。年上のマーティが助けてくれるが、アーサーはひどい仕打ちに耐えかねていた。そして、とうとう2人は牧場を逃げ出すことに成功する。児童移民の実話を元にした物語。

K933 8E 戦場のオレンジ

エリザベス・レアード／作 石谷尚子／訳 評論社

1975年に勃発した、レバノン内戦が舞台。アイーシャは爆撃で家と母を失い、祖母と弟たちと共に避難する。ところが、頼みの祖母まで持病が悪化し、倒れてしまう。アイーシャは祖母を助けるため、今は敵の領地となったふるさとの病院へ走る。

K933 8H 勇者ライと3つの扉 1 金の扉

エミリー・ロッダ／著 岡田好恵／訳 KADOKAWA

強固な壁に囲まれたウェルドの街には、毎年夏になると怪鳥スキマーが大群で襲来する。ライの兄たちは、怪鳥を差し向けているとされる壁の外の敵を倒すため、家を出て行った。帰って来ない兄たちの無事を信じ、ライは兄たちを探す冒険に出発する。

K943 30 クララ先生、さようなら

ラヘル・ファン・コーイ／作 石川素子／訳 徳間書店

ユリウスはクララ先生が大好きだった。しかし、先生は病気でもう先が長くない。残された時間を生徒と過ごしたいと、教室の後ろに寝椅子を置いて交

流するが、体調をくずしてしまう。死を迎える先生のために、ユリウスはクラスメイトと協力して最高のプレゼントを作る。

K949 ヲ ぼくとテスの秘密の七日間

アンナ・ウォルツ／作 野坂悦子／訳 フレーベル館

サミュエルは頭が良すぎて、家族の中でも孤立することがあった。家族で行ったバカンスでも1人になり、テスという少女に出会う。テスは、今まで会ったことがない父親を呼び寄せる計画を立てていた。計画に協力しながら、サミュエルは家族について考える。

物語 中高生

K913 化 死神うどんカフェ1号店 1杯目

石川宏千花／著 講談社

2年前の夏、希子はクラスメートの三田亜吉良に命を救われた。希子をかばって意識不明となった亜吉良は、今も目を覚まさない。ところが、家の近所にできたうどん屋で、希子は亜吉良と再会する。そこは、死神が経営する不思議なうどん屋だった。

K913 ヲ 鹿の王 上・下

上橋菜穂子／著 KADOKAWA

妻と息子を病で亡くし、生きる意味をなくしたヴァンは、奴隷として働きながら死を待っていた。しかしある奇病を克服し、同じ境遇の少女ユナと生きることで、ヴァンは生きる意欲を取り戻していく。しかし、民族紛争の絶えない国内情勢が、次第にヴァンの生活を脅かす。

K913 ヲ 江戸の象吉

太田大輔／作 講談社

様々な動物たちが暮らす江戸の町に、ある日ゾウの象吉がやってきた。魚屋の棒手振りとして働きはじめると、象吉はたちまち人気者となる。魚屋の再建や、大火事の消火などに立ち回るうち、象吉が実はハートナム国の第3王子であることが幕府に知れる。江戸時代の庶民の暮らしぶりもかいま見ることができる物語。

K913 ヲ 片目の青

陣崎草子／著 講談社

ある日、真矢は飼い犬の散歩中に、沢へ落ちて動けなくなる。出血で朦朧とする真矢を助けたのは、1匹の野犬だった。片目のないその犬は、野犬の群を率いて何者にも媚びずに生きていた。その生き様と自分を比べ、真矢は憧れを抱くようになる。しかし、町会では野犬狩りの計画が持ち上がる。

K913 シア アイсплаネット

椎名誠／著 講談社

中学2年生の悠太の家には、叔父さん「ぐうちゃん」が居候している。世界中を旅して仕事をしているぐうちゃんは、おもしろい話をたくさんしてくれる。それは、日本の生活に慣れている悠太には、想像もしたことがないようなことを考えるきっかけをくれた。教科書に掲載している同名の短編小説を、長編に書き下ろした作品。

K913 けん 鈴狐騒動変化城

田中哲弥／著 伊野孝行／画 福音館書店

町一番の小町娘、お鈴と伊助の縁談話が決まる。お鈴に憧れていた清吉は、悔しく思いながらも祝福していた。ところが、悪名高い殿様に目をつけられ、お鈴は城へ上がることになる。なんとか阻止しようと、清吉は仲間を集めて作戦を練る。そこへ助っ人としてやってきたのは、狐だった。

K913 ナ ユキとヨンホ 白磁にみせられて

中川なおみ／作 舟橋全次／絵 新日本出版社

秀吉の朝鮮出兵を機に、博多で暮らすユキは中国人の大商人だった父と別れた。しかし、質素な生活になっても、幼い頃に培われた審美眼は衰えず、やがて廻船問屋で働くようになる。ユキは父が扱っていた中国の磁器を、日本でも作れないかと手を尽くす。伊万里焼発祥の物語。

K913 ナ クリオネのしっぽ

長崎夏海／著 佐藤真紀子／絵 講談社

先輩の嫌がらせに反発して水泳部をやめて以来、美羽は人と関わるのをやめた。家庭では奔放な父が家を出て行き、母がストレスを抱えていたが、どうすることもできない。しかし派手な転校生サッチに目をつけられ、彼女に巻き込まれていく中で、美羽は人と関わる苦しみや喜びに気づく。

K913 ハキ 石を抱くエイリアン

濱野京子／著 偕成社

中学3年生の市子は、自分の未来に希望を持ってなっていた。そんなある日、クラスメートの高浜偉生に告白される。将来の夢を生きいきと語る偉生は、市子とは対照的。複雑な思いを抱きながらも、市子はその人柄の良さに気づいていく。そして迎えた卒業式、それぞれの進路に向かう市子たちを、東日本大震災が襲った。

K913 かん 夏の朝

本田昌子／著 木村彩子／画 福音館書店

亡くなった祖父の家には、美しい蓮池がある。祖父の一周忌に訪れた莉子は、祖父の家が取り壊され、蓮池もどうなるかわからないと聞く。翌朝、蓮の花が開花し、その香りをかいた瞬間莉子は時を越え、生きている頃の祖父と出会った。

K913 マミ 伝説のエンドーくん

まはら三桃／著 小学館

緑山中学校に語りつがれる完全無欠のヒーロー「エンドーくん」。彼の伝説は、校舎のあちこちに残された落書きが物語る。それは生徒だけでなく、教師たちにも影響を与えていた。新任教師の清水勇氣は、生徒の問題と向き合うため、エンドーくんの力を借りて一計を案じる。様々なことに思い悩みながら教壇に立つ先生たちを描く。

K913 マミ 風味さんじゅうまる

まはら三桃／著 講談社

風味の家は、大正から続く老舗の和菓子屋。これまでは伝統の味を守り細々とやってきたが、お菓子コンテストに参加するための新作を作ることになった。家族中を巻き込んで新作開発に乗り出すが、兄と違って和菓子職人の素質がない風味は、疎外感を感じる。それは、部活での自分とも重なるのだった。

K913 ミ なないろレインボウ

宮下恵菜／著 ポプラ社

中学校の入学式の日、七海という虹がきっかけて意気投合する。すぐに仲良くなった2人だったが、かわいくてなんでもできるいろはに、七海はしばしば嫉妬してしまうようになる。すれ違いながらも、友情を育んでいく等身大の中学生を描いた物語。

K913 ム ダッシュ！

村上しいこ／著 講談社

真歩、沙風、みらい、葉月は、小学校からのリレー仲間。中学最後の大会へ向け、4人は練習に励む。しかし、真歩はなぜ自分がキャプテンに指名されたのか迷い続けていた。家族や親友、そして仲間たちとの交流を通し、真歩は自分なりの答えを見つける。

K913 め クラスメイツ 前期・後期

森絵都／著 偕成社

中学生になった相本千鶴は、小学生までの平凡な自分をやめるために、新しいことに挑戦しようとするが、うまくいかない。そんなとき、友だちの言葉で「自分らしさ」に気づく。24人のクラスメイトそれぞれを主人公にしたオムニバス形式で、1年A組の1年を追う。

K913 ヌ 時速47メートルの疾走

吉野万里子／著 講談社

町平は、恥をかかないように生きてきた。しかし、運動会の応援団長を引き受けたことから、歯車が狂いだす。運動会では負け、罰ゲームとして逆立ちでグラウンドを1周することになる。心の中の様々な葛藤と闘いながらも、傍目には黙々と約束を果たす町平の姿は、同級生たちの心を動かしていく。

K913 ビ なりたい二人

令文ヒロ子／作 PHP 研究所

長身がコンプレックスのちえりは、目立たないように学校生活を送っていた。ある時、学校の課題で

将来なりたい職業を調べることになり、ちえりは幼馴染の少年ムギと組むことになる。そこでムギの意外な将来の夢を聞き、ちえりも自分が本当に憧れている職業に気づく。

K913 ㉗ 文学少年と運命の書

渡辺仙州／作 ポプラ社

明代の中国、呉承恩は父の商売の帰り道、不思議な少女と出会う。みずぼらしい身なりを哀れに思い、食べ物を分けてやろうとしたが、少女が食べたのは呉承恩の読んでいた書だった。父の大事な帳簿まで食べてしまった少女は、内容を教える代わりに衣食住の世話をしろと言い出す。

K933 ㉗ ゴールデン・ドリーム 果てしなき砂漠を越えて

ロイド・アリグザンダー／作 宮下嶺夫／訳 評論社

ある日、カルロは本屋に譲ってもらった本の間から、宝の地図を見つける。幼い頃から要領の悪いカルロは、大きな失敗をして居候していた家を追い出されるが、そのまま宝探しに出発した。道中では、個性的な道連れや苦難と出会うはめになるが、持ち前の素直さで乗り越えていく。

K933 ㉗ 真夜中の電話

ロバート・ウェストール／作 原田勝／訳 宮崎駿／装画 徳間書店

クリスマス・イブの夜、電話相談ボランティアの担当者は、いつもハリーだった。しかし今年は急病で、若い夫婦が担当した。深夜、1本の電話がかかる。相談者は、もうすぐ殺されると言う。はじめは冷静に対応していた妻だったが、次第に様子がおかしくなる。

K933 ㉗ 二つ三ついいわすれたこと

ジョイス・キャロル・オーツ／作 神戸万知／訳 岩波書店

友達だと思っていたのに、ティンクはメリッサに何も言わずに亡くなった。順風満帆な学校生活を送っているように見えるメリッサだったが、家庭では大きな問題を抱えていた。ティンクの死をきっかけに、メリッサは満たされない思いのはけ口として、自分を傷つけはじめる。すると、ティンクの幻が現れた。

K933 卅 ルーシー変奏曲

サラ・ザール／著 西本かおる／訳 小学館

ルーシーは、幼い頃からピアニストとして脚光を浴びてきた。しかし祖母の死をきっかけに、私生活をすべて犠牲にしてピアノを弾くことに疑問を感じる。家族に反発し、音楽を辞めたルーシーだったが、ピアノ教師ウィルとの出会いが彼女を変えていく。ウィルを通して自分の気持ちと向き合うことで、ルーシーは劇的に成長する。

K933 ㍿ タイムライダーズ 1

アレックス・スカロウ／作 金原瑞人／訳 小学館

1912年、沈没するタイタニック号の中で、リアムは死を覚悟していた。そこへ突然男が現れ、助けられる。男は、タイムトラベルが可能になった未来から来たと言う。そして、過去を変えようとする者たちを取り締まる「タイムライダーズ」になってほしいと頼まれる。

K933 ㍿ はじまりのとき

ティン＝ハ・ライ／作 代田亜香子 鈴木出版
ベトナム戦争で難民となり、カンボジアからアメリカへやって来た少女キム・ハとその家族。一家は消息不明の父が帰ってくることを信じ、慣れないアメリカでの生活を続ける。周囲の人びとの援助や家族の絆で苦勞して異国の生活に溶け込むうち、一家はとうとう父の死を受け入れる。

K933 ㍿ さよならのドライブ

ロディ・ドイル／作 こだまともこ／訳 フレー

ベル館

学校の帰り道、メアリーは不思議な女性に出会う。彼女は、メアリーの早世した曾祖母だと言う。娘である祖母の死期を悟り、生前にできなかったお別れをしに来たのだった。親子4世代の記憶をたどりながら、メアリーは自らのルーツを知る。

K933 ニシ 偽りの王子 カーシア国三部作 1

ジェニファー・A・ニールセン／作 橋本恵／訳 ほんぷ出版

孤児のセージは、貴族のコナーに身を買われる。コナーは各地から孤児を集め、死んだ王子に仕立て上げようとしていた。候補になった3人の少年は、王子になるための訓練を受ける。選ばれなければ殺されると知り、他の2人は必死に取り組むが、セージはなぜか反抗ばかりする。

K933 ハシ 夏の魔法 ペンダーウィックの四姉妹

ジーン・バーズオール／作 代田亜香子／訳 小峰書店

父と4姉妹のペンダーウィック家は、夏休みをコテージで過ごすことになった。コテージの持ち主は気難しい女主人で、次女のスカイが偵察に行く。そこで女主人の息子ジェフリーと出会い、4姉妹は、ひと夏の交流を通してかけがえのない友情を育む。

K933 フル サマセット四姉妹の大冒険

レズリー・M.M.ブルーム／作 尾高薫／訳 ほんぷ出版

コーネリアは、忙しいピアニストのママとなかなか会えない。家政婦もコーネリアのことを理解せず、いつも寂しい思いを抱えていた。そんな時、ひよんなことから隣に引っ越してきた老女ヴァージニアと出会う。コーネリアは、若き日のヴァージニアと姉妹たちの冒険譚を聞く。世代を超えた友情を描く。

K933 柁 カンボジアの大地に生きて

ミンフォン・ホー／作 もりうちすみこ／訳
さ・え・ら書房

ポル・ポト政権崩壊直後のカンボジアを描いた物語。小さな農村に暮らしていたダラと家族は、住む家と父をなくし、噂を頼りに難民キャンプへ出発した。なんとかたどり着いたキャンプ地で、一家は食料と安らぎを得る。しかし、それも長くは続かなかった。

K949 レ 15の夏を抱きしめて

ヤン・デ・レーウ／作 西村由美／訳 岩波書店

15歳のトーマスが死んだ。しかし、その死を受け入れることができない母親や元恋人、そして夢見がちな祖父にはまだトーマスが見える。思い出や遺品にすがり、生きる希望を見失ってしまった3人だが、周囲の人との繋がりがきっかけとなり、それぞれ立ち直っていく。3人を見守るトーマスの穏やかな眼差しが印象的。

その他 文学

K910 加 平安女子の楽しい！生活

川村裕子／著 岩波書店

恋に悩み、おしゃれを楽しみ、将来について考える平安女子の姿は、現代の私たちの生活と同じ。身近に感じる平安時代の女の子の日常を紹介しながら、古典を楽しむきっかけになる1冊。〔中学～〕

K910 卅 オウリィと呼ばれたころ 終戦をはさんだ自伝物語

佐藤さとる／著 川村裕子／著 岩波書店

『コロボックル物語』シリーズを世に出した著者は、太平洋戦争末期、旭川に疎開していた。終戦後は米兵の部隊で下働きを務め、「オウリィ（ふくろう坊や）」のあだ名をもらう。横浜に帰郷した後は、童話を書くという夢が少しずつ形になっていく。著者の、終戦をはさんだ二年間が回想されている。〔中学～〕

K910 ㍑ 『赤毛のアン』と花子 翻訳家・村岡花子の物語

村岡恵理／文 布川愛子／絵 学研教育出版

翻訳家・村岡花子は、モンゴメリの『赤毛のアン』を日本にはじめて紹介した。日本の子どもたちのために戦争中も翻訳を行ない、届けた花子。花子の生涯を親しみやすいイラストや写真を交えながら紹介する。〔小中～〕

K916 ヲ ぼくが見た太平洋戦争

宗田理／著 PHP 研究所

『ぼくらの七日間戦争』などで知られる著者は、中学生だった太平洋戦争中、愛知県の豊川海軍工廠で動員されていた。工廠は激しい空襲にあい、壊滅的な被害を受ける。戦争がどんなに残酷であり、犠牲になるのは庶民であることを、宗田さんが若い世代に向けて語りかける。〔中学～〕

主 題 書

K007 7/ ロボットは東大に入れるか

新井紀子／著 100%ORANGE／装画・挿画 イーストプレス

「ロボットは東大に入れるか」と問うプロジェクトを通して、人工知能の技術のあり方を考える。コンピューター上で動くソフトウェアに「東ロボくん」と愛称をつけ、東ロボくんが大学入試模試を受験した結果を掲載。未来の人工知能と人間の関わり方についても展望する。〔中学～〕

K020 7/ 本について授業をはじめます

永江朗／著 少年写真新聞社

今、手元にある本は、どうやって作られ、運ばれてきたのか。一本の木が本になるまでの過程を、丁寧に解説。本のルーツをたどる旅では、電子書籍についても紹介している。「本のいろんな読み方」など、本にまつわるコラムも掲載。〔小中～〕

K070 3/ 新聞は、あなたと世界をつなぐ窓

木村葉子／著 汐文社

新聞の役割を、「知る権利を守る」、「隠れた事実を掘り起こす」などの項目に分け、実際の見出しを挙げながら紹介。スクラップなどの新聞活用術も掲載している。著者は、毎日小学生新聞を作成しており、教育に新聞を取り入れるNIE活動でも活躍している。〔小中～〕

K159 マミ こどもたちへ まどさんからの手紙

まど・みちお／文 ささめやゆき／絵 講談社

2014年、詩人のまど・みちおさんが104歳でこの世を去った。この作品は、まどさんが84歳のときに、母校の小学生たちに送った手紙を書籍化したもの。毎日を無駄にせず、元気に生きてほしいという、まどさんからのメッセージが、平易な言葉で綴られている。〔小低～〕

K210 外 おどろきの東京縄文人

瀧井宏臣／著 講談社

2012年2月、東京都新宿区で縄文人の骨が発見された。生きていた頃の顔を再現する「復顔」や、骨の分析などの調査により、縄文人の顔つきや食生活を解き明かしていく。写真を多用し、復顔の過程が詳しく解説されている。〔小高～〕

K289 切 星のこども カール・セーガン博士と宇宙のふしぎ

ステファニー・ロス・シソン／作 小峰書店

宇宙探査の基礎を築いたカール・セーガン博士の人生をたどった作品。宇宙や生命の不思議に魅せられた少年時代から、世界で最も尊敬される科学者となるまでを描く。元宇宙飛行士の山崎直子さんが、初めて翻訳を手がけている。〔小中～〕

K289 秋 五日市憲法草案をつくった男・千葉卓三郎

伊藤始 杉田秀子 望月武人／著 くもん出版

1881年、東京の山村で編まれた「五日市憲法草案」。この草案は、国民の権利と自由が保障されており、戦後の「日本国憲法」に近い内容を持つものだった。憲法草案に尽力した千葉卓三郎の生涯を、丹念な調査をもとに描く。〔小高～〕

K289 ユマ マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女

マララ・ユスフザイ パトリシア・マコーミック／著 道傳愛子／訳 岩崎書店

2012年10月、15歳だったマララは、イスラム武装勢力タリバンによって銃撃を受けた。タリバンが女子の教育を禁止する中、彼女は、学校に通う権利について積極的に発言していた。銃撃されるまでの体験や、奇跡的な回復を遂げた後を、書きおろしの手記としてまとめた一冊。〔小高～〕

K289 好 ダーウィンが見たもの

ミック・マニング／作 ブリタ・グランストローム／作 渡辺政隆／訳 福音館書店

ダーウィンが「進化論」を考えたきっかけは、1831年に、イギリス海軍の船で航海にでたことにある。彼は、5年近くの航海の間に、ガラパゴス諸島やオーストラリアなどを回り、観察と研究を続けた。ダーウィンの一生と、何を見て何を考えたかを紹介する。〔小中～〕

K289 マ ネルソン・マンデラ 自由へのたたかい

パム・ポラック／著 メグ・ベルヴィソ／著 伊藤菜摘子／訳 ポプラ社

黒人として、はじめて南アフリカ共和国の大統領になったネルソン・マンデラ。彼は、人種差別に対する抗議運動のリーダーとして27年もの間投獄されていたが、多くの人々の支持を受け、自由と平等を訴え続けた。〔小中～〕

K297 コ 南極から地球環境を考える 1～3

国立極地研究所／監修 こどもくらぶ／編さん 丸善出版

南極の魅力や自然環境の素晴らしさを伝えるシリーズ。1巻では、南極探検と観測の歴史や、基地を紹介している。「南極がはじめて発見されたのはいつごろ？」など Q&A 方式でまとめられ、わかりやすい。全3巻。〔小高～〕

K361 ス/ アサーション・トレーニング 気持ち伝わるコミュニケーション 1～3

平木典子／監修 鈴木教夫／編著 汐文社

アサーションとは、自分の気持ちや意見などを、率直かつその場にふさわしい方法で述べることをいう。同時に、相手の話をしっかり聴くという相互尊重のコミュニケーションでもある。シリーズでは「学校編」「友だち編」「家庭編」と、日常の中でお互いに分かり合える話し方や聞き方を学ぶ。〔小中

～〕

K366 セ 職場体験学習に行ってきました。1～10

全国中学校進路指導連絡協議会／監修 学研教育出版

仕事をすることの喜びや意義を学ぶ職場体験学習。シリーズでは、中学生が行なった実際の体験を紹介しながら、さまざまな仕事内容を知ることができる。事前準備や事後学習の方法も紹介されていて、わかりやすい。全10巻。〔中学～〕

K367 イ みんなのチャンス ぼくと路上の4億人の子どもたち

石井光太／著 少年写真新聞社

世界には、路上で生活したり、働いたりする子どもが4億人もいる。生活環境が悪いため、下痢で命を失う子どもも多い。そんな子どもたちの日常が写真で紹介された後、視点は日本の子どもたちへと移る。貧困が存在する世の中を、どうしたら良くすることができるかと問う一冊。〔小低～〕

K369 ヲ みんなを幸せにする新しい福祉技術 1～3

孫奈美／編著 汐文社

見る・聞く・話すことにかかわる福祉技術の新製品を写真で紹介したシリーズ。取り上げられている福祉商品は、どれも、「困っている人たちを助けたい」という開発者のアイデアが出发点になっている。全3巻。〔小中～〕

K369 ヲ 織物を未来の色に染めて カンボジアの二人の少女

秋山浩子／文 汐文社

カンボジアで、美しい絹織物を織るサリカと、バッグなどの縫製をしているダラ。二人の少女は、貧困や人身売買により過酷な幼少期を過ごしたが、現在は「若者の家」で働きながら今を懸命に生きてい

る。教育を受け技術を身につけることで、希望を持って生きていけるようになった少女たちの姿を描く。〔小中～〕

K369 17 光と音のない世界で 盲ろうの東大教授 福島智物語

池田まき子／著 岩崎書店

福島智さんは、9歳で視力を、18歳で聴力を失った。光と音のない世界から彼を救ったのは、智さんの母親が思いついた「指点字」だった。大らかで明るい人柄と、周囲の協力で障害を克服し、盲ろう者として初めて大学の教授となった半生をつづる。〔小中～〕

K369 11 ふるさとにかえりたい リミヨおばあちゃんとヒバクの島

羽生田有紀／文 島田興生／写真 子どもの未来社

1954年、13歳のリミヨが住む島の隣で、水爆実験が行なわれた。死の灰で多くの人が犠牲となり、それまでの生活は失われた。1985年に島民は別の島に移住したが、実験から60年たった現在でも、安心してふるさとに帰る日は来ない。水爆実験の恐ろしさを伝える写真絵本。〔小中～〕

K369 14 思い出をレスキューせよ！ “記憶をつなぐ”被災地の紙本・書籍保存修復士

堀米薫／著 くもん出版

「紙本・書籍修復士」とは、手紙・図画などの紙や本を直して保存し、次代に残す仕事をする人のこと。岩手県に住む金野さんは、東日本大地震で被災した人たちの思い出や、地域の歴史を消さないよう、現在も懸命に作業を続けている。〔小中～〕

K374 17 給食室のはるちゃん先生

光丘真理／文 佼成出版社

食べることが大好きな関はるさんは、学校栄養士として、給食の栄養管理や、献立の指導を行い、

「はるちゃん先生」として子ども達に親しまれてきた。得意のイラストを活かしたパネルシアターや、給食のレシピ集で栄養指導を行う関さんの取り組みを紹介する。〔小中～〕

K375 14 調べてみよう、書いてみよう

最相葉月／著 講談社

ノンフィクションを書く方法を、テーマの選び方や取材の方法などに分け、それぞれ具体的に解説する。中でも、資料の調べ方では、インターネットで得た情報の取捨選択の仕方についてわかりやすく紹介。図書館の使い方も教えてくれる。〔小高～〕

K377 17 もっと知りたい！ノーベル賞 ノーベル賞の大研究

若林文高／監修 文研出版

ノーベル賞の授賞式がある12月10日は、賞の創設者、アルフレッド・ノーベルの命日にあたる。この本ではノーベルの生涯をたどるとともに、選考方法や各賞の解説、授賞式の様子などを紹介。1901年にはじまった第1回から2012年までの受賞者一覧あり。〔小中～〕

K382 13 極北の大地に住む 地球ものがたり

関野吉晴／著 ほるぷ出版

1年の半分以上が、雪で覆われている極北の地で生きる人々。彼らは、ナイフとマッチ、釣り道具があれば生きていけると言う。さまざまな工夫を重ね、北の大地でたくましく生きる様子を紹介。手元にあるものを工夫して使うことが、これから先の地球環境に適応する知恵と説く。〔小低～〕

K383 14 食べているのは生きものだ

森枝卓士／文・写真 福音館書店

私たちが食べているものは、塩を除けば、生き物から作られている。モンゴルでは羊を殺して肉を加工し、ラオスでは、トカゲや虫を殺して食べている。食べることは、生き物を殺して命をいただいている。

ること、と訴える一冊。〔小中～〕

K383 イ ビジュアルでわかる世界ファッションの歴史 1～5

ヘレン・レイノルズ／文 徳井淑子／監修 ほるぷ出版

人間が古来からいかに多くのファッションをためし、美を追い求めてきたかを、服飾のアイテムごとに紹介したシリーズ。その時代や地域を代表する流行を、豊富な写真や絵で解説している。巻末に年表や用語解説を掲載。全5巻。〔小中～〕

K385 ユ 草と木で包む

U. G. サトー／文と絵 後藤九／写真 酒井道一／写真 福音館書店

私たちの祖先は、草や木を使い、編んだり巻いたりして、様々なものを包んできた。用が済んで捨てられた包みは、土に還り、新しい草や木を育てる養分となる。この本では、笹で水あめを包んだ「笹あめ」や、わらで作った米俵などを写真で解説。富山からは〈ます寿司〉が紹介されている。〔小中～〕

K410 ミ 算数が好きになる本 算数を学ぶ意味と方法がわかる

芳沢光雄／著 小松亜紗美／絵 講談社

「花火の音が遅れて聞こえてくるのはなぜ？」
「ものの重さを比べるにはどうしたらいいの？」算数が苦手だという人に、わかりやすい解説と楽しいイラストで贈る、算数が好きになる本。〔小中～〕

K421 カ アイシュタインとタイムトラベルの世界 親子で楽しむ

佐藤勝彦／著 幻冬舎エデュケーション

アイシュタインは、「時間は伸びちぢみすること」に、世界ではじめて気づいた人物である。彼の唱えた相対性理論をもとに、タイムトラベルの可能性をイラストを交えてわかりやすく紹介する。〔小中～〕

K431 ユ 粒でできた世界

結城千代子・田中幸／著 太郎次郎社エディタス

科学の不思議、美しさ、面白さ楽しんでもらえたらという思いから刊行された「ワンダーラボラトリ」シリーズ。1巻では、原子や分子など、世界が粒でできていることを視覚的に説明している。粒を研究したブラウンやアインシュタインといった科学者たちのコラムも収録。〔小高～〕

K447 タ 巨大隕石から地球を守れ

高橋典嗣／著 少年写真新聞社

隕石は、太陽系誕生や、地球内部の秘密を解き明かす手がかりとなる。この本では、隕石の正体や、衝突によって引き起こされる自然災害について解説している。地球に接近する小惑星や彗星を早期に発見する、「スペースガード」の活動についても紹介。〔小中～〕

K449 ヤ 時計がわかる本

矢玉四郎／著 岩崎書店

児童文学作家としても活躍する矢玉四郎さんが、時計の読み方について解説した本。短針と長針を分けて読むなど、工夫が光る。時間についての考え方や時計の歴史など大人にも楽しく読める。〔小低～〕

K452 カ 海がわかる57のはなし

藤岡換太郎／著 誠文堂新光社

「海はどのくらい広くて深いの？」といった海についての素朴な疑問から、レアメタルなどの海底資源に関する最新の話まで、海に関する基礎知識を57の項目に分けて紹介。〔小中～〕

K458 ヤ 石の卵

山田英春／文・写真 福音館書店

卵にそっくりの外見だが、切って中をみると美しい模様が輝く「石の卵」。大昔の海の底で、死んだ貝やアンモナイトのまわりに泥などがくっつき、長い年月をかけて大きくなったものだ。ほかに、火

山の噴火で生まれた「石の卵」など、自然の力で作られる不思議で美しい石を紹介している。〔小中～〕

K471 牝 草の根のたんけん ぼくの自然観察記

おくやまひさし／著 少年写真新聞社

ふだん、目にすることのない草の根を、野原や土手、山や海辺など、自生する4つの場所に分けて、絵と写真で紹介する。身近なセイヨウタンポポをはじめとして、植物の根の様子が細密に描かれ、わかりやすい。実際に調べた時にも役立つ。〔小中～〕

K480 ㊦ 生きものつかまえたらどうする？

秋山幸也／文 松橋利光／写真 偕成社

カタツムリや、バッタなど、身近な生きものつかまえたかや飼いかたなどを、ひと目でわかるように写真で解説。生きものたちの特徴や大きさ等も紹介する。「よく見てみよう」のコラムで観察のポイントも解説。〔小低～〕

K480 ㊦ 動物のおじいさん、動物のおばあさん

高岡昌江／文 すがわらけいこ／絵 学研教育出版

動物園にいる、お年寄りの動物たちにも若い頃があった。おじいさんゴリラや、おばあさんカバなど、日本の動物園にいる7頭が歩んできた道のりを、動物の「りれきしょ」や「アルバム」とともに振り返る。〔小高～〕

K480 牝 ぴっかぴかすいぞくかん

なかのひろみ／文・構成 福田豊文／写真

水族館の水槽やプールは、いつもきれいに保たれている。生き物の健康のためにも大切なことだからだ。サメの水槽では襲われないよう檻に入ったり、イルカのプールでは水を全部抜き大急ぎで掃除をするなど、生き物の特長に合わせた清掃の様子を紹介する。〔幼児～〕

K480 ㊦ どうぶつえんのみんなの1日

福田豊文／写真 なかのひろみ／文 アリス館

動物園にいる動物たちは、どんな暮らしをしているのだろうか？そんな疑問に答えるべく、動物たちの一日をイラストや写真で時系列で紹介する。おやつや夜の過ごし方など、普段は見られない動物たちの姿を観察することができる一冊。〔小低～〕

K481 ㊦ 海中大探検！しんかい6500で行く、深海への旅

井上よう子／作 木下真一郎／絵 岩崎書店

海中深くにもぐるができる有人潜水調査船、しんかい6500。調査船から見る深海魚を、細密な絵で紹介している。海底の変化を地震の研究に役立てていることや、海の中にも山脈や谷があることも解説され、謎と神秘に満ちた深海の様子がわかる一冊。〔小中～〕

K481 ミ㊦ 動物たちのビックリ事件簿

宮崎学／写真・文 農山漁村文化協会

動物カメラマンの著者が、中央アルプスの動物たちによるさまざまな事件を四季ごとに紹介。人間社会と動物たちのかかわりが見えてくる。第1巻では樹液を求めて樹の皮をはぐツキノワグマ、巣作りをする鳥たちの様子などを観察する。〔小中～〕

K481 ミ㊦ 食べて始まる食卓のホネ探検 ゲッチョ先生のホネコレクション

盛口満／文・絵 少年写真新聞社

普段食べているものには、骨のあるものが多い。たとえば、フライドチキン。食べた後に骨を見ると、ニワトリのどの部分を食べたのかがわかる。身近な食卓から、体の仕組みのすごさを実感できる本。

K482 ㊦ アジア動物探検記

飯島正広／著 福音館書店

写真家・動物映像作家である著者が、アジアを巡り撮影した動物たちを、地域にわけて紹介する。さ

さまざまな環境で生きる動物だけでなく、すぐそばで暮らす人々の生活を切り取り、アジアの文化を知ることができる。〔小中～〕

K488 ㊦ ヤンバルクイナ 世界中で沖縄にしかいない飛べない鳥

江口欣照／写真と文 小学館

沖縄北部、〈やんばる〉とよばれる森で1981年に発見された鳥〈ヤンバルクイナ〉。沖縄にのみ生息する鳥だが、森の開拓や他の動物に襲われるなど絶滅の危機にあり、保護活動が行われている。珍鳥ヤンバルクイナの生態を撮影した1冊。〔小中～〕

K488 ㊦ ニワシドリのひみつ 庭師鳥は芸術家

鈴木まもる／文・絵 岩崎書店

オーストラリアとニューギニアにすむニワシドリ。まるで庭師のように「あずまや」を作るので、庭師鳥（ニワシドリ）とよばれている。巣のほかに「あずまや」を作るにはどんな理由があるのだろうか。ニワシドリのひみつについて、美しいイラストで解き明かす。〔小低～〕

K488 ㊦ 水中さつえい大作戦

中川雄三／文・写真・絵 福音館書店

ふかもなどが水にもぐっているとき、水中での様子を知りたいと思った著者は、写真撮影のため、いろいろな作戦をたてる。カモそっくりの人形を帽子にして水に潜ったり、カモロボットに水中カメラを付けて近づいたり……。何度も失敗を繰り返し、とうとう水面下でいきいきと動くカモたちの撮影に成功する。〔小中～〕

K488 ㊦ コウノトリ よみがえる里山

宮垣均／文 兵庫県豊岡市の人々／写真 小峰書店

1971年、日本から野生のコウノトリの姿が消えた。兵庫県豊岡市では、絶滅の前から人工飼育を

始め、2005年に、野生復帰に向けた最初の放鳥が行われている。コウノトリが生きる環境を作るには、人々の暮らしを変えていく必要がある。田を整備するなど豊岡市の取り組みを紹介。〔小中～〕

K489 ㊦ 大草原のノネコ母さん

伊澤雅子／文 平出衛／絵 福音館書店

町に住むノネコ（ノラネコ）の研究をしている著者が、オーストラリアの森や草原や砂漠のノネコを観察・研究した1冊。もともとオーストラリアにはいなかったネコがどのように厳しい自然の中で生きているかを丁寧に解説する。〔小中～〕

K489 ㊦ なぞのサルアイアイ

島泰三／文 笹原富美代／絵

「南の島のおサルさん」として、童謡で親しまれている〈アイアイ〉。実は謎に包まれており、発見されてから100年もの間、リスの仲間だと思われていた。鋭い前歯と細長い中指をもつアイアイの生態をイラストを使って紹介。〔小中～〕

K489 ㊦ 地雷をふんだゾウ

藤原幸一／著 岩崎書店

タイとミャンマーの国境地帯の森では、ゾウが木の切り出しのために働かされ、地中に埋められた地雷や不発弾によって命を落としている。著者は、奇跡的に生き残ったゾウの保護施設を訪ね、体の一部を失ったゾウの姿を紹介。辛く過酷なアジアゾウの歴史から、平和を考える一冊。〔小中～〕

K489 ㊦ ウマがうんこした

福田幸広／写真 ゆうきえつこ／文 そうえん社

一日中草を食べるウマは、うんこをたくさんする。ウマのうんこは、1頭1頭匂いが違うため、だれのうんこか匂いでわかる。また、赤ちゃんが草を食べられるようになるには、お母さんのうんこが必要だ。わかりやすい言葉とウマの躍動感のある写真で、生

きる力強さが伝わる写真絵本。〔幼児～〕

K498 7/ トイレをつくる未来をつくる

会田法行／写真・文 ポプラ社

東ティモールでは、下痢やコレラに苦しむ子どもが多く、乳幼児の死亡率も高い。屋外で排泄する習慣による不衛生な環境のためだ。子どもたちのため、清潔なトイレ作りに立ちあがったマヌタシ村の取り組みを紹介し、トイレのある生活環境が、人間にとっていかに重要であるか考察する。〔小高～〕

K491 杉 のぞいてみようウイルス・細菌・真菌図鑑 1～3

北元憲利／著 ミネルヴァ書房

ウイルスや細菌、真菌といった微生物の仕組みや特徴をわかりやすく紹介したシリーズ。1巻では、ウイルスをテーマに、ウイルス感染について解説。急性胃腸炎を起こすノロウイルスや、昨年話題になったエボラ（出血熱）ウイルスが取り上げられている。全3巻。〔小高～〕

K498 4 食中毒

伊藤武／監修 汐文社

命にかかわることもある食中毒。食中毒の原因にはさまざまな細菌、ウイルス、自然毒などがある。この本では、原因物質の特徴と予防について詳しく解説。「細菌たちの事件ノート」として、普段の生活で起こった食中毒の例も紹介している。〔小中～〕

K498 コシ 調べよう！実行しよう！よいすいみん 1～3

神山潤／監修 こどもくらぶ／編 岩崎書店

「よくねむること」は「よく生きること」と言われるようになった現代。しかし、いまだ科学的に解明されていない謎が多くある。1巻では睡眠とはなにか、動物と人間の睡眠の違い、寝ている間に私たちの体に何が起きているのかなどの謎を解き明かす。全3巻。〔小中～〕

K502 7 世界に誇る！日本のものづくり図鑑

伊藤武／監修 汐文社

日本で製造や開発をした製品には、世界中で使われているものが多い。身近なインスタントラーメンから、小惑星探査機まで、製造を支える人々の情熱と、ものづくりに対するたゆまぬ努力を紹介する。〔小高～〕

K504 化 科学のお話『超』能力をもつ生き物たち 1～4

石田秀輝／監修 学研教育出版

自然界の現象をヒントに作られた道具や技術を、イラストや写真を使って、わかりやすく解説したシリーズ。刺されても痛みを感じない、カメの針のような口をヒントに作られた注射針などを紹介。全4巻。〔小中～〕

K509 コト 町工場のもものづくり 一生きて、働いて、考える一

小関智弘／著 少年写真新聞社

町の小さな工場が、巨大なダムや人工衛星を支えている。50年余り旋盤工として働いていた著者が実体験を交えながら、「ものづくり」に挑戦を続ける町工場の姿を描く。〔小中～〕

K519 好 「おさかなポスト」が教えてくれること 多摩川の生態系を守る山崎充哲

たけたにちほみ／文 佼成出版社

神奈川県のある公園には、いろいろな事情で飼えなくなった魚やカメを預かる「おさかなポスト」が設置されている。ポストの管理をしているのは、「山ちゃん」と親しまれている山崎充哲さんだ。おさかなポストを通じて、地域の人々と一緒に命の大切さや生態系について考えてきた活動の様子を描く。〔小中～〕

K521 竹 町家えほん

山口珠瑛／作・絵 松井薫／監修 PHP 研究所

奥に細長い京都の町家は、おもてで商売をし、奥で生活するようになっていく。この本では、町家で喫茶店を営む「福ねこさん」が、光と風をとりこむための「前栽」とよばれる庭や、収納に便利な箱階段など、町家の工夫や生活の知恵を紹介している。

[小低～]

K523 村 東京駅をつくった男 日本の近代建築を切り開いた辰野金吾

大塚菜生/著 くもん出版

2014年に開業百年を迎えた東京駅。赤レンガが特徴的なドーム型の駅舎は、長年にわたって親しまれている。たくさんのアイデアを盛り込んで、この駅舎を設計した辰野金吾の生涯を紹介する。

[小中～]

K538 マ 月へ行きたい

松岡徹/文・絵 福音館書店

満月の夜、男の子が遠い月までどうやって行こうか考える。空を飛ばうか、飛行機で行こうか。この本ではロケットを使う方法が紹介され、その仕組みをイラストで詳しく解説している。宇宙エレベーターなど、新しい方法が開発される可能性も示唆。[小中～]

K538 ワ 宇宙への夢、カいっぱい！

若田光一 高橋うらら/著 PHP 研究所

若田光一さんは、これまでに4度の宇宙飛行を経験し、日本人として初めて、国際宇宙センターのコマンダー（船長）を務めた。若田さんが、宇宙飛行士を目指すまでの道のりや、国際宇宙センターでのミッションを紹介する。[小高～]

K546 イ みんな知りたい！ドクターイエローのひみつ

飯田守/著 講談社

ドクターイエローとは、実際の線路を新幹線と同じ速度で走りながら、電気や軌道などの走行設備に

不備がないか検査、測定する試験車である。走行本数がとても少ないため、「まぼろしの新幹線」とも呼ばれている。ドクターイエローにまつわる謎や、車内での乗務員の仕事ぶりについて紹介。[小高～]

K547 シ 10歳からのデジタル・シチズンシップ ネットの海でもうぼくらはおぼれない

清水譲治/作 井上千裕/絵 玉川大学出版部

ある日、見知らぬ外国の島の市長から、謎の電子メールが届いた。1通のメールをきっかけに、子どもたち自らが、デジタル世界の仕組みや付き合い方を体験していく。巻末に「デジタル国について、ここが聞きたいのですが…」と題したQ&Aを掲載。

[小高～]

K583 九 古くて新しい椅子 イタリアの家具のしゅうりの話

中嶋浩郎/文 パオラ・ボルドリーニ/絵 福音館書店

イタリアに住むマルコは、父親から古い机と椅子をもらう。壊れている机と椅子は、さまざまな職人の手で修理され、よみがえる。普段の生活に根付いた職人たちの技を丁寧に描く。[小中～]

K590 カ 一人前になるための家事の図鑑

家事の図鑑の会/編 岩崎書店

片付けや洗たく、料理など、生活する上で必要な家事をだれにでも出来る方法で丁寧に解説。一つひとつの過程が、写真やイラストを使って説明され、わかりやすい。巻末には、トイレがつまった時など、緊急事態への対応法を集めて掲載。[小高～]

K616 カ バケツで実践超豪快イネづくり 1粒のタネが一万粒に！

薄井勝利/監修 農文協/編 農山漁村文化協会

たった1粒の種モミをバケツで育てると、いったいどれくらいの米が獲れるのだろうか。イネが育って

いく様子や、より大きく育てるために大切なことを、写真で丁寧にわかりやすく紹介する。〔小中～〕

K616 ニュ ごたっ子の田んぼ

家西村豊／著 アリス館

八ヶ岳のふもとの小学校では、毎年5年生がもち米を作っている。1年を通して作業の様子や子どもたちの姿を写真で紹介する。ごたっ子とは、長野県諏訪地方の方言で「いたずらっ子」「やんちゃな子」という意味を持つ。〔小中～〕

K626 ヌビ 世界の不思議な野菜 これって食べられるの!? 驚きの姿のひみつ

湯浅浩史／著 誠文堂新光社

緑色のナスに茎を食べるレタス、バナナの花のつぼみや白い実のスイカ……。世界では私たちが知らない野菜が食べられている。世界各地の野菜を果菜類、根菜類などに分類し、写真で各地の様子と共に紹介する。〔小高～〕

K645 イ 捨て犬・未来、命の約束

今西乃子／著 浜田一男／写真 岩崎書店

過去に虐待されていた犬の“未来”。今では、新しい飼い主と、学校で「命の授業」を行なっている。子どもたちから「牛や豚は殺してもいいのか」という質問が寄せられ、答えを探すために、未来たちは牧場を訪ねる。〔小中～〕

K664 ヲ うなぎ一億年の謎を追う

塚本勝巳／著 学研教育出版

2009年、世界で初めてウナギの卵が発見された。日本人の食卓には馴染み深いウナギだが、どこで卵を産むかということはわかっていなかった。このウナギの謎を解明するため、世界中の海を調査した様子を紹介する。著者はウナギ研究の第一人者であり、光村図書4年国語「ウナギのなぞを追って」を執筆している。〔小中～〕

K673 竹 世界が感動! ニッポンのおもてなし 1~3

小笠原敬承斎／監修 日本図書センター

「おもてなし」とは、相手を大切に思う「こころ」と「かたち」が合わさった、日本のすばらしい文化である。このシリーズでは、18の企業・団体が実践しているおもてなしを紹介している。働く人へのインタビューや実践例などがあり、わかりやすい。全3巻。〔小中～〕

K678 サミ メイドインどこ? 1~3

斉藤道子／編・著 大月書店

身の回りの輸入製品に目を向け、それがどんな国からやって来たか調べて紹介するシリーズ。1巻では食べものや飲みもの、2巻では学校にあるもの、3巻では家庭にあるものについて取り上げている。写真やグラフが多く、わかりやすい。全3巻。

K686 外 はしれさんてつ、きぼうのをせて

国松俊英／文 間瀬なおかた／絵 WAVE出版

2011年に起きた東日本大震災により、東北地方の鉄道は大きな被害を受けた。そんななか、地震からわずか5日後に、三陸鉄道リアス線が一部で運転を再開する。人々が悲しみに沈んでいるなか、復興のシンボルとして希望を乗せ走り出した三陸鉄道、その復旧を支えた人々の物語。〔小中～〕

K702 マヒ ラスコアの洞窟 ぼくらの秘密の宝もの

エミリー・アーノルド・マッカーリー／絵と文 青山南／訳 小峰書店

1940年、第二次世界大戦中のフランス南部の町。4人の少年が偶然、洞窟を発見した。中の壁には、まるで描いたばかりのような牛やトナカイが描かれていた。それは旧石器時代の人々が残した人類の宝ものだった。〔小低～〕

K702 ツ ふしぎ?びっくり!ニッポン美術たんけん 1~3

辻惟雄/監修 日本図書センター

日本人がつくってきた彫刻や絵画、工芸の中から代表的な作品を時代順に紹介。1巻では縄文から鎌倉時代を対象に土偶や仮面、絵巻、鎧などを取り上げる。美術作品を楽しく鑑賞することができるシリーズ全3巻。[小中~]

K706 め たいせつなわずれもの

もりむらやすまさ/著 平凡社

芸術家の森村泰昌氏が芸術監督を務めた美術展、ヨコハマトリエンナーレ2014。出品された作品に森村さんの言葉を添えた本書は、展覧会のコンセプトを再構成している。作品と向き合った時に、「あ、そうか」と面白く感じるヒントになるために編まれた写真絵本。[小中~]

K709 マ まるごと日本の世界遺産

増田明代/著 講談社

「世界遺産」とは、いったい誰が何を目的として決めているのだろうか。富士山が世界遺産に決定した裏側を描きながら、日本にある世界遺産の価値や抱える問題点について解説する。[小高~]

K736 サ よみがえる二百年前のピアノ

佐和みずえ/著 くもん出版

二百年前のピアノは、今のピアノとは全く別の楽器だった。「ピアノ修復家」が、ミイラのような状態のぼろぼろのピアノを、丁寧な作業を積み上げて修復する過程を描く。ピアノ修復家の修行時代や、楽器としてのピアノの歴史もあわせて紹介。[小中~]

K709 マ まるわかり!パラリンピック 1~5 まるごと日本の世界遺産

日本障がい者スポーツ協会/監修 文研出版

パラリンピックの歴史や、選手たちの活躍、各競

技について紹介したシリーズ。日本人選手やスタッフの物語も掲載され、多くの人が世界で活躍していることがわかる。1巻ではパラリンピックのあらましを解説、2~5巻では競技を夏と冬に分けて紹介している。全5巻。[小中~]

K764 ロ 名曲を聴きながら旅する オーケストラの絵本

ロバート・レヴァイン/文 メレディス・ハミルトン/絵 たかはしけい/訳 プレジデント社

オーケストラの魅力を音楽家、楽器、歴史などの視点からわかりやすく伝える。パートIでは、有名な音楽家たちの面白いエピソードや、名曲が生まれた背景を紹介。パートIIでは、楽器の歴史と特徴を解説している。より理解が深まるCD付き。[小高~]

K779 ハ 林家木久扇のみんなが元気になる学校寄席入門 1~4

林家木久扇/監修 彩流社

落語の楽しみ方や演じるための方法を、落語家の林家木久扇が紹介するシリーズ。1巻では、「落語って、いつからはじまったの?」などの質問に、写真やイラストを使ってわかりやすく答えている。巻末に落語まめじてんを掲載。全4巻。

K780 ニ Q&A でわかる!はじめてのスポーツボランティア 1~4

日本スポーツボランティアネットワーク/監修 こどもくらぶ/編 ベースボールマガジン社

スポーツボランティアとは、報酬を目的とせずに、スポーツ活動を支援する人のことである。このシリーズでは、2020年の東京オリンピックの開催を控え、注目が集まるスポーツボランティアについてQ&A方式で解説。全4巻。[小中~]

K783 ナ 打てるもんなら打ってみろ! ダルビッシュ、田中、藤浪、松井、安楽速球王たち

の甲子園伝説

中村計／著 講談社

現在、メジャーリーグで活躍するダルビッシュ有投手や田中将大投手。彼らは、高校生の時から剛速球を投げ、甲子園を沸かせていた。彼らの野球に対する思いと、一緒に闘った仲間たちの素顔を描く。

[小高～]

K801 ヤ ずかん文字

八杉佳穂／監修 技術評論社

古代の文字と現在世界で使われている文字から約60種を選び紹介する。4種類の文字を起源として、さまざまな文化に合わせて発達していった文字。人間の英知の結晶ともいえる文字を、写真やイラストを用い、わかりやすく解説した。[小高～]

T652 加 花粉症のない未来のために 無花粉スギの研究者・齋藤真己

金治直美／文 佼成出版社

つらい花粉症のもととなるスギ花粉。しかし、富山市内の神社で発見されたのは無花粉スギだった。

〈無花粉スギ〉があれば、何十年後の未来には花粉症がなくなるのではないか。富山県の森林研究所で

〈無花粉スギ〉の研究を行なっている齋藤真己研究員の軌跡を追う。[小中～]

選定基準

- ①子どものために出版されたものであること。
- ②子どもの知的、情緒的経験を広げることができること。
- ③子どもの発達段階に応じた、理解しやすい内容であること。
- ④絵本の場合は、絵と文の調和がとれていること。
- ⑤ノンフィクションの場合は、知識が正確で時代の進歩に応じていること。

編集後記

今年、「ぞうさん」などの歌を書かれたまどみちおさんや、『おいしいのぼうけん』などで知られる古田足日さん、赤ちゃん向けの絵本『がたんごとんがたんごとん』を描かれた安西水丸さんが相次いで逝去されました。児童文学界に大きな足跡を残されただけでなく、様々な活動を通し、子どもたちの未来に貢献された方々でした。

6月には富岡製糸場が世界遺産に登録されたこともあり、『世界に誇る！日本のものづくり図鑑』（汐文社）や『町工場のもものづくり 一生きて、働いて、考える』（少年写真新聞社）など、ものづくりをテーマにした作品が目立ちました。また、富山市内で見つかった＜無花粉スギ＞研究の軌跡を追った作品『花粉症のない未来のために 無花粉スギの研究社・斎藤真己』（佼成出版社）が出版され、明るい未来を感じさせました。

この冊子に掲載された図書によって、子どもたちがこれからも希望に満ちた未来を描けるよう、想像力を刺激する一助となれたらと思います。

(児童奉仕係：崎川)

*選定・執筆は、物語（小学校低・中・高学年、中学生）は崎川、絵本は高田、知識の本、文学・ルポルタージュは水島が担当しました。

表紙掲載作品

『ぼんちんぱん』 柿木原政広／作 福音館書店

『あげます。』 浜田桂子／作 ポプラ社

『いろいろなほん』 エルヴェ・テュレ／作 谷川俊太郎／訳 ポプラ社

『ほんをひらいて』 トニ・モリスン&スレイド・モリスン／文 シャドラ・ストリックランド／絵
さくまゆみこ／訳 ほるぷ出版

『まばたき』 穂村弘／作 酒井駒子／絵 岩崎書店

『マララ』 マララ・ユスフザイ、パトリシア・マコーミック／著 岩崎書店

『ハカバ・トラベルえいぎょうちゅう』 柏葉幸子／著 たごもりのりこ／絵 BL出版

『まほろ姫とブッキラ山の大テング』 なかがわちひろ／作 偕成社

平成27年4月16日発行

富山市立図書館

〒930-0085

富山市丸の内1丁目4-50

TEL (076) 432-7273